LA SEMANTO

種蒔く人

大正十年十二月一日（第三種郵便物認可）
大正十二年五月二十八日（印刷納本）
大正十二年六月一日發行（毎月一日一回發行）

5861
2144
no. 21

行動と批判

第三年第四巻第十九號

頭脳勞働者
平和論
酒
無名の英雄
母への書
ロシアの子供を救へ

BERKELEY
LIBRARY
UNIVERSITY OF
CALIFORNIA

□六月號□

種蒔き社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

NIA DEKLARO

Iam antaŭe homoj kreis diojn. Sed homoj nun estas ilin mortigintaj. La destino de l'kreitaĵoj estas facile divenebla.

Nuntempe ne sintrovas dioj. Tamen ĉie aliformigaĵoj de dioj estas plenaj. Dioj devas esti mortigitaj. Kiuj ilin mortigas, estas ni; kaj kiuj ilin aprobas, estas la malamikoj. Du kampadejoj kontraŭstaras unu la alian. Dum ĉitiu stato daŭradas, homoj estas malamikoj de homoj. Neniam estas inter ili la vojo de kompromiso; tie nur estas „jes" aŭ „ne," „vero" aŭ „malvero."

Vero estas absoluta. Ni do diras pri la Vero, kiun aliuloj ne diras. Homoj estas lupoj kontraŭ homoj. Landoj aŭ rasoj estas en nenia rilato por ili. Sub la lumo de Vero okazas unuiĝo kaj apartiĝo.

Jen! ni batalas por la [illegible] kune kun la kamaradoj el la tuta mondo!

La Semanto. (*TANEMAKIŜA*)

種蒔く人六月號目次

(題言)
頭脳勞働者と文筆勞働者……山川均
安倍能成の平和論……山口小靜
母への書……三宅信
□暴力……前田河廣一郎
□烈片……藤森成吉
□精神文化……武藤直治
小牧近江
□クラルテ序文……佐々木孝丸
□ロシヤの子供を救へ……會三つ
□愚劣なる空論を排す(光造)――「戀と牢獄」を讀む(亮)――アナとボルの爭ひ(光造)――讀書後(小牧)――地獄から歸つた少年の話(小牧)――話が違ふ(寸見生)――「火」を評す(松)――大衆の創造性(青野)――文藝への逃避(袈裟美)――創作、飜譯、詩、(青野)……
□世界欄――聳人欄……
□表紙及びカット……柳瀬正夢

創作

酒……金子洋文
無名の英雄……若松不知火

Digitized by Google   Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

青年とルール

同志諸君

新帝國主義的戰爭の危險が益々地平線上に大きく現はれかけてゐる。地球の至る處から新しい爭鬪及び軍備擴張の報告がやつてくる。

「人心の變化」でなくて、團結して勞動者の爭鬪のみがよくヴエルサイユ條約を廢棄し、軍國主義並に反動を打破し得る。

大英國の青年こそ、新帝國主義的戰爭勃發の際に、他の諸國の同志たる勞動者に突喊する樣に召集されるだらう！

青年同志諸君、最近の世界戰爭の諸結果は確かに諸君の全部に明かな筈だ。吾が英國に於て諸君の父や兄弟が吾が支配者達のためしに勝利を得んと戰場に於て現はした勇敢さの結果はどうだ、約二百萬の永久の失業軍、不斷の賃銀引下及び勞働時間延長ではないか。

諸君の多數は大戰の結果たるヴエルサイユ條約の御陰で今失業してゐる。諸君の多數は定期的な規則立つた失業の何たるを今日まで少しも知らないできた。諸君はもう一つ戰爭——その結果は青年勞働者にとつて今日以上の害となるだらう——を欲するのか。

諸君は知つてゐる、賃銀は引下げられ又は何の分配にも與らない長い間の失業の後に、諸君に當面するものはただ陸海軍あるのみであることを。吾々は吾が青年同志諸君が陸海軍に於て如何に虐待されてゐるかを繰り返し〳〵素破抜いてきた。青年勞働者のチヤンピオンであるY.C.L（青年共產主義同盟）は手を拱れて吾が青年同志諸君が飢餓のために已むを得ずブルショア陸海軍に引づられて行くのを見てはゐないだらう。

Y.C.Lをあの『青年壯年勞働者均一失業手當』の要求に立ち返へせ。

もし戰爭が起れば、それは吾が青年同志諸君の滅亡を意味するだらう。吾々は全プロレタリア青年團結に愬へる、反動並に戰爭に對する自三月十一日至十八日の聯合宣傳週間に團結して吾々と行動を共にせんことを。吾々は愬へる、青年勞働階級を軍國主義と反動の益々增大する危險から擁護するために勞働階級の共同戰線を張られんことを。

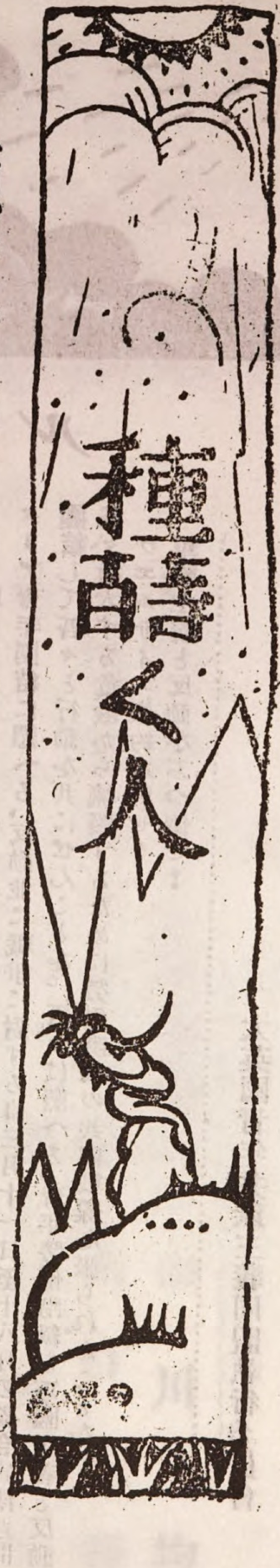
ヴエルサイユ條約を廢せ！

軍國主義と反動をぶつ倒せ！

大英國青年共產主義同盟執行委員會

東167821

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



頭腦勞働者と組合運動

山川均

一

勞働者が、單に勞働條件の改善を終局の目的として居る間は、そして資本主義が、資本家同士の間の自由競爭を特徴として居る時代には、勞働者の生活改善の間には、勢ひその戰線を狹くした方が有利である。この形勢に應じて生まれたものが、即ち熟練工の職別的組合であつて、職別的の組合は、勞働階級全體としての利害は暫らくおいて——或は之を犧牲として——或る職業に屬する熟練工を有利な地位に置かうとするものである。

ところが一方には、資本主義の特徴が自由競爭から聯合と獨占に移り、他方には、勞働階級の戰ひが、搾取制度の撤廢と階級的の解放とを終局の目的とする時代に至ると、熟練工の職別的組合は、最早や新しい戰ひの新しい所要を滿たすことが出來ぬ。

搾取制度の撤廢と勞働階級の解放を目標とする鬪爭は、勢ひ產業を管理しようとする要求となつて具體的に現はれなければならぬ。然るに產業の管理は、或る產業に從事する一切の從業者を包容した產業的の組合を條件としないでは、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

考へることは出來ぬからである。

之は見易い道理であつて、試みに或る大きな停車場で、三十分か一時間、汽車を待合したゞけでも直ぐ分る。資本主義の大動脈なる交通系統のうちの、ほんの一つの關節、一つの連鎖に過ぎぬこの一つの停車場すらも、機關手組合によつては管理することが出來ぬ。火夫組合によつても、轉轍手組合によつても管理することは出來ぬ。是等の職別的の組合は、交通系統の一關節の活動を、一時混亂狀態に陷入らしめることは出來る。けれども之を管理することの出來るのは、有ゆる種類の鐵道從業員を包容した產業的の組合のみである。そしてこの組合のうちには、勢ひ色々の種類の謂ゆる『頭腦勞働者』とも包容しなければならぬ。

二

近代的の意味での階級とは、血統や門閥の關係ではなくて、生活の資料を獲る方法――收入の方法――の相異である。廣い意味でのインテリゲンチヤの多數は、勤勞の外に賣るべき何物をも有せぬ點に於ては明かに生產階級であつて、筋肉勞働者と少しも異るところはない。

然らば今日まで、生產階級の一部分（インテリゲンチヤの多數）と他の一部分（勞働者）との協力を妨げて居るものは何だらう。

第一には、頭腦勞働者は、智識の特權的性質の爲に、多かれ少かれ經濟上に有利な地位を占めておることである。萬人に對して、教育を受ける均等の機會の保障せられて居らぬこの社會では、智識は勢ひ特權的の性質を帶びて來る。そして此の特權が、やがて其の持主に、筋內勞働者に優越した經濟的の地位を與へることになる。筋肉勞働者と頭腦勞働者との間にある經濟的地位の相異が、兩者の協力を妨げるのは、恰ほ熟練が一種の特權であつて、熟練工と不熟練工との間に著しい經濟的地位の相異のあつた時代には、兩者の協力の不可能だつたのと同じである。

第二には、この經濟上の優越が、頭腦勞働者をして、自分の勤勞に誤つた價値評價をさせて居ることである。頭腦の

働きを以つて、筋肉の働きよりも上等の働きであるかの如く考へるインテリゲンチャの心理は、要するに經濟的地位の優越を心理に反譯したものに外ならぬ。そしてブルジョアの精神主義はこの幻影を誇張することによつて、頭腦勞働者と筋肉勞働者との階級的一致を阻止して居る。

第三には、頭腦勞働者の大多數は、直接生產の過程に從事してゐないで、商品の流通その他の過程に使はれて居る。然るに價値を創造するのは獨り生產の過程であつて、流通その他の過程に働いて居る者は、生產過程に於て創造せられた價値の配け前に預つて居るに過ぎぬ。從つて流通その他の過程に使はれてゐる頭腦勞働者は、一面に於ては傭主の資本の搾取を受けては居るが、他の一面に於ては——即ち、生產過程で創造せられた價値の配前に預つて居るといふ一點では——自己の搾取者たる傭主との間に共通點を持つて居る。斯ように生產以外の過程では、搾取と被搾取との關係は、生產過程に於ける資本と勞働の場合ほどに、單純に鮮明に對立して居らぬ。之は頭腦勞働者に限つたことではなく、生產以外の過程に使はれて居る場合には、筋肉勞働と雖も同じことである。この事實はやがて生產以外の過程に使はれてゐる生產階級分子（主として頭腦勞働者）の階級的意識を沮止し、從つて筋肉勞働者との協力を妨げる有力な力となる。

第四には、インテリゲンチャのうちには、直接に社會の經濟的機能を滿たさないで、ブルジョア個人的の欲望を滿たす非經濟的の勤勞をしたり、又はブルジョアジーの階級的の必要に奉仕し階級的支配を支持することによつて、資本家のポケット・マネー（剩餘價値の配前）のうちから養はれて居るものが少くない。このインテリゲンチャは全然ブルジョアと同じ心理狀態にあるが、少くとも階級鬪爭に中立の立場を取る『公平』な心理狀態を持つて居る。斯ような經濟的地位と心理とか、勞働階級との協力を妨げることは白明であつて、無產階級の革命に對する、最も執拗な反動勢力の戰線がこの分子にあることは云ふまでもない。

三

然るに資本主義の最近の發展は、筋肉勞働者のうちの熟練工と不熟練工との差異を最少限度に縮少した。熟練工は不

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

熟練工に對して、最早や曩日の如き優越した經濟的地位を占めることが出來なくなつて來た。その結果として、從來は經濟的地位の相異によつて兩斷されてゐた勞働階級が、今や渾然たる一個の勞働階級を形成するやうになつて來た。それと同じく、資本主義の最近の發展は、筋肉勞働者と頭腦勞働者との差異を、著しく縮少した。多數の頭腦勞働者は、最早や曩日の如くに、智識の特權によつて優越した經濟的地位を維持することが不可能となつて來た(頭腦勞働者の就職難が、筋肉勞働者以上に甚しいこと、從つて頭腦勞働者にして筋肉勞働者に變ずるものが多いこと等)。その結果は云ふまでもなく、筋肉勞働者と頭腦勞働者とを包容した純一な無產階級の形成に外ならぬ。

熟練工と不熟練工との差異が最少限度に縮められ、そして勞働階級の內容が純一に歸した結果として、初めて從來の職別的組合に代はる產業的組合が可能となしたやうに、筋肉勞働者と頭腦勞働者との間の差異が漸次に縮少せられることは、筋肉勞働と頭腦勞働とを包容した內容に純一な、無產階級の形成せられることを意味して居る。そして內容の純一な無產階級の形成にて、眞に包容的にして產業管理の能力ある、產業別組合に欠く可らざる條件である。

インテリゲンチヤと頭腦勞働者とが、はかなき優越感に自分を欺いて來た幻影は、資本主義の發展によつて急激に破壞せられて居る。インテリゲンチヤと頭腦勞働者の階級意識を沮止してゐた條件は、資本主義の發展そのものによつて、日に日に破壞せられて居る。インテリゲンチヤはその『頭腦』を、勞働階級に『筋肉』と同一の立場におかなければならぬ。そして之が人間の『頭腦』に達し得た最高の智識である。

組合勞働の最もおくれて居る日本でも、筋肉勞働者は既に數十の組合を組織し、階級意識に目醒めた……………。彼等は明らかに、人間の達……………、……………した最高の智識によつて動き、最高の知識によつて針路を定めて居る。

之に反して知識を誇りとするインテリゲンチヤと頭腦勞働者は、今日に至るまで唯だの一つの組合をも持つて居らぬ。之は多くの知識を持つ知識者が、却つてブルジヨアジーの思ふ心的支配から獨立した唯だ一つの知識を持つて居らぬことを告白したものではあるまいか。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

頭腦勞働者は、先づその職業に從つて組合を組織し、近き將來に於ける完全なる產業組合の準備をしなければならぬ。

安部能成氏の平和論（遺稿）

山口小靜

讀者諸君は昨年三月號の「社會主義研究」に「匈牙利の勞農革命」と題せる硏究論文を發表した吉田梅子女史の名を記憶せられるであらう。本文の筆者山口小靜は同女史の本名で、女子は右論文を發表した一年後の同じ月、卽ち本年三月二十六日、宿痾のため遂に死去された。前途を大いに囑望されてゐた同女子を失つたことは日本無產婦人運動の上に一大損失であらねばならぬ。その數多き遺稿中でも特に絕筆に等しい本編を揭げてこゝに女史を記念することゝした。――編輯者――

『雄辯』の二月號に、『平和を來す力』と題する安倍能成氏の名論が揭載されてゐた。『本篇は十月八日法制大學時局講演會でせられたる講演速記の主要部を御多忙中なる先生に乞ふて御訂正を願ひ玆に揭載する運びになつたものである』といふ『附記』が明記されてゐる以上、吾々は相當に安心して、先生の責任あるこの名論に傾聽してもよからうと思ふ。

一

先生は先づエマーソンの言を引いて『世界の歷史は戰爭の歷史である……しかしながら戰爭の勢が昔より次第に減少しつゝある事實を見なければ未だ具眼者であるとは云へない』と冒頭して、さてその所謂『事實』なるものを極めて奇拔に說明されてゐる。先生によると『昔の人は戰爭が好きであつた。或は又好きになる敎育を受けてゐた。けれども現代に於ては好戰的精神を煽動する敎育が全然跡を絕つたといふ譯ではないが、しかし戰爭的精神は確かに減退しつゝあ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ることを無視するわけには行かない』

不幸にして未だ先生の所謂『具眼者』たる事を得ない吾々は、この『事實』を素直に受入れる前に少くとも三ッの疑問を起す。その(一)は先生の所謂『昔の人』『現代の人』といふ言葉が意味する範圍に就いてゞある。歴史の『皮相的』觀察に過ぎない吾々は、未だ階級鬪爭を無視した『昔』『現代』なる語を容れる餘裕を持合せない。成程『昔の人』の一部階級に就いては一面『戰爭好きであつた』といひ得ないこともないだろう。しかしながら(二)何が故に好きであつたか、若しくは好きであらされたか、それは後に先生自身斷言されてゐる如く、『我々にとつて常に平和が望ましいものであるといふことは、蔽ふことの出來ぬ事實である』としたならば、單に『好きになる樣な教育を受けてゐた』から、といふ丈では濟まぬ。何が故に『好きになる樣な教育を受けさせられたか』は依然として大なる疑問でなければならぬ。(三)(一)によつて既に『昔の人』を『昔の人』の一部階級と改めることによつて、吾々は辛うじて先生の言の一部に對して讓歩の德を示さうとしたが、次に推論の當然として『現代の人』をも『現代の人』の一部階級と書き改めて見ねばならぬ破目になつた。こゝに於て吾々は先生の立場の前提が危機に瀕してゐることを豫め『具眼者』たる先生に警告するの親切を吝まないものである。

二

無論『具眼者』たる先生は既に『現代に於ては好戰的精神を煽動する教育が全然跡を絶つたといふわけではないが……』と云つて、かなりの讓歩若しくは豫防を用意されてゐるのを見る。……しかし乍ら『今度の大戰の樣な大規模の戰爭は未だ嘗て無かつた』といふのは『單に皮相的な見方』であつて、『我々が更に一歩を進めて考へる時、現代の人々には果して昔の人々の樣に容易な樂な氣特で戰爭を爲るか、又現代の人々は果して戰爭を好んでやつてゐるか、或は厭々ながら止むを得ずやつてゐるかどうか問ふ必要がある』そして先生の深刻なる觀察によれば、『好戰的精神は確かに減退しつゝあることを無視するわけにはゆかない』！

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

吾々『皮相』觀察者と雖、或條件の下には現代に於いて『戰爭的精神が減退しつゝある事實』を必らずしも『無視するものではない。或條件とは何か。それは現代に於ける一部階級の一部人士の間には既に確かに積極的、又自覺的に『戰爭的精神が減退しつゝある』といふことである。しかし乍ら消極的には、戰爭によつて只塗炭の苦しみをこそ受け、勝敗共にその利害關與せぬ一部階級に於ては、現在戰爭を好んでゐない樣に、昔も決して好んではゐなかつた。否！ その必要すら彼等にはまるで無かつたのである。戰爭は今も昔も單にそれによつて直接利害を蒙る一部階級の必要手段であり、又あつたのである。個人的好惡の如きはこの場合問題でない。それは時代の必要であり、從つて又時代の精神であつた。そして吾々の倫理道德義務の觀念、更に個人的好惡の感情さへもその時代の必要が生んだ產物の一つであつたに外ならぬ。それは支配階級の道德であつたと同時に、無智無力な被支配階級にも强要された。否！ 寧ろそれは前者が後者を壓迫し誅求するの手段として必然に生じた產物でさへあつた！

先生にして若し百尺竿頭一歩を進めて、この支配階級の間に於ても猶『戰爭的精神が確かに減退して行く』傾向があると云はるゝとしても——被壓迫階級は古今共に歷史外のものである！——吾々は今更あはてゝ世界を十重二十重に圍繞しつゝある資本主義の鐵鎖！ そしてその必然の產物である各國の軍國主義！ 軍國主義的敎育！ 忠君愛國的精神の鼓吹！ 强要！ を並べ立てゝ歷史上嘗て見ざる列强の物々しい武裝振りを指示するがものはない。却つて、最も『好戰的敎育を受けて容易に樂な氣持で戰爭を爲してゐた』筈の昔の支配階級の中にも猶戰爭悲劇に堪へずして、世をはかなみ、僅に自分一個の安息を消極的不定的（支配階級の自慰的逃避所なる）宗敎の中に求めて滔々走り、一世を擧げて迷信的暗黑時代を現出したといふ東西の史實を指摘する方がこの場合に於て、寧ろ近道であり、且先生の名論を覆すには十分であらうと思ふ。

三

『又我々は下の樣な風にも觀察することが出來る』と云つてこん度は驚くべき大思想の片鱗を閃かされた。『現在の世界

は確に資本主義の世界であり、資本主義が今度の戰爭を爲さしめた重大原因だといふ考へは大體に於て正鵠を得たものであらう。それ位に資本主義といふもの丶勢力は著しいものである、併しながら資本主義といふものが其勢を極度に逞しくして其の勢力を大きくるすと云ふ事は、軈て又資本主義を否定する處の精神を生みつゝあるものと觀察することが出來るゝ思ふ。』これは全くその通りである。そして吾々は徹頭徹尾これ丈の思想に終始するものである。しかし乍らこの思想が先生によつて如何なる程度まで理解せられ、咀嚼されてゐるか、この一篇のうちにあつて、それはどれ丈の重要さを持つてゐるか、若しくは單に先生の博學を示すエピソートの一つに過ぎないものではなかつたか、は後章に於て先生自ら答辯の勞をとられる筈であるからこゝには謹んで多辯を避ける。

　こゝで先生は身を轉じて、この理法を直ちに以て戰爭論に應用された。卽ち『それと同じ樣に古今未曾有の大組織の下に非常なる人命と物價とを費し未だ嘗て無い處の疲勞、未だ嘗て無い處の影響を及ぼす戰爭が起つたといふ事は、軈て又戰爭的精神を極度に發達せしめて、更にそれを否定するといふ樣な新しい方向を生む重大な原因となりはしないだらうかといふことである。』卽ち先生によると、大戰の原因は資本主義であつた。しかし戰爭的精神は敢て資本主義によつて增大されはしない。それは資本主義とは沒交涉にそれ自身の力で『極度に迄發達する』！　そして前の理法によつて『更に自らを否定する新しい精神を自らの中に生ずるに到る』！『さういふ風に我々が考へてゆく時、世界に於て確かに此の戰爭を起す原因といふものは依然として殖えつゝあり、殘りつゝある事を認めると同時に、一面に於て戰爭を無くする少くする原因の起りつゝあることを認めなければならない。我々は一方の戰爭の起る原因のみを見て悲觀するには及ばない。戰爭を無くする所の原因も又非常に强い力を以て我々の生活の中に生じつゝあるといふことを認めなければならないと思ふ』而して先生によつてこれを見ると『此の戰爭を起す原因（資本主義）は依然として殖えつゝあり』榮えつゝあるにも拘らず、戰爭的精神は既に『極度の發達』を遂げてしまつた！　何故ならば既に『戰爭自らを否定する精神がその中に生れて來たからである。』この上所謂軍國主義の針を續ける事が出來ないといふことは既に獨逸が（獨り獨逸が？）明かな模範を示して吳れた』？

四

しかしながら『今世界に軍備縮小の聲が聞えるからといつて、直ぐに前の事を忘れて軍國主義はいけぬとか、軍備縮小でなければいけぬとか、軍備撤廢でなければいけぬかといふのは自分自身に省みて忸怩たる者がある』べき筈で、『單に平和論や軍備縮小論が流行るから平和論をやり……軍備の撤廢を論じて一時の快を取るならばそれは極めて暢氣な事である』吾々はこゝに於てか、不思議なるヂレンマに陥らざんとするも得ないのである。戰爭否定の機運は、精神は、先生によれば、『戰爭的精神が極度に發達した結果として自らその中に發生してくる自然の大理法ではなかつたのか、獨逸の明かな例證はどうなつたのか、更にこれは冒頭に於いて大いに具眼者振りを發揮せられた『戰爭の勢が昔より次第に減少しつゝある事實』そのものではなかつたのか、しかし『心を鎭めて』今一度先生に聽け！『エマーソンは平和運動といふものは所謂プロパガンダや所謂輿論に依つては決して來ないと云つた。軍備縮小問題が盛んになれば軍備縮小を口にする、平和問題を口にするといふ節操のないジャナリストといふものに依つて組織される輿論は決して平和を來さない』と、然り！　吾々はこゝに於て、初めて積年の疑塊の氷解することが出來た！　所謂プロパガンダや所謂輿論を引き起すに至つた事實そのものを見る事は、先生によればすべて『皮相なる』觀察に過ぎない！　自然の大理法によつて事實は新に他の事實を生む、しかしその事實を單に事實として見る者は『未だ具眼者であるとは云へない』！『所謂プロパガンダや輿論』を以てすべて『切操のないジャナリストの仕事のみと勝手に斷定された事は、この場合吾々にとつては最早一場の御愛嬌であるに過ぎない！』

五

『プロパガンダや輿論』を以てすべて『節操のないジャナリストの極めて暢氣なる仕事』であると斷定されるり前に、先生は目下世界の事實に卽した悲壯な憂國振を發揮されてゐるのを見る。こゝに先生の擧げられた所謂事實の大なるも

のが二つある。その一は『實際一寸世界地圖を見て蕞爾たる日本の島々が廣漠な他國の領土に圍まれて動きの取れぬ樣な有樣を見ると我々でもどうしていつたらよいものか』と案じられる。その間を兎も角『鎖國の夢破れて以來、大なる外的脅威であつた支那と戰ひ、露西亞と戰ひ……實際さういふ戰爭に勝つた爲に、日本の國威といふものは段々高くなつて遂に今日の地位を得たのである』そしてそれは獨り日本のみならず『大抵の國家がその興隆を見る迄に經來る徑路である』切實なる理由の第二は『日本國民の人口增加の問題である』今や日本は一方哩四百何人といふ人口を擁して而も人口增加率も他の文明國に立越えてゐる始末である』しかも『日本の移民は到る處で拒絕されてゐる』『我々は世界地圖を見て我々の領土の狹少で而も我々の國人が世界の到る處で排斥されてゐる事情を見る時、時には帝國主義でなければ不可ないといふ心待が湧くこともある』そして『一面に於て日本が今迄のように軍國主義的方針を採つて行く事にも隨分現實的な强い理由がある事を認めざるを得ない』

『併しながら此の上所謂軍國主義の方針を續ける事が出來ないといふことは既に獨逸が明かな模範を示して吳れた』！

しかも『日本が果して軍國主義を撤廢するにした處が此後如何なる方法を採つて日本の將來をやつてゆくかといふことは我々素人から考へても中々難問題で、それに對して具體的方法を示す事は難かしい』！

然り、『鎖國の夢破れて以來』卽ち日本に資本主義が樹立されて以來、日本の軍國主義は周圍の『脅威』を打破つて、遂に自ら世界の『脅威』となる迄に『國威を發揚』し得たのである！　そして國民の生活興味の狹隘と劣等なる婦人の地位とは相俟つて、更に移民問題に於て世界を『脅威』する迄に『國威を發揚』し得たのである！

我が哲學先生の大なる憂悶に共鳴しない者があつたならば、それは『極めて暢氣なる皮相的觀察者』にして未だ『具眼者であるとは云へない』！

六

一度憂國の念に燃えて奮起したる具眼の士は、最早や『資本主義といふものがその勢ひを極度に逞しくして其勢力を

大きくするといふ事は軈て又資本主義を否定する處の精神を生みつゝある』如く、『戰爭的精神を極度に發達せしめることはやがて更にそれを否定する新しい方向を生むに到る』如く、しかく國家的觀念をも極度に發達せしめた結果は、やがて國家觀念そのものを自ら否定するに到るべきは當然の歸結であると嘯いて、袖手傍觀してはゐられない！　否具眼の士は、日本の國家が未だ自巳否定の精神を生み出す迄に發達してゐない事を明かに目睹するが故に、憂慮措く能はざるものがあるのである！　何故ならば日本の國威は未だ列强の『脅威を悉く慴服せしめる迄に到つてはゐないし、移民の必要は尙益々『國威の發揚』を催促してゐるからである！　さればと云つて『先進諸國が口を拭ふて軍國主義を否定しようとする時勢になつてゐる』今日、近くは『獨逸が旣にこの上軍國主義を續ける事の不可なる所以を明かに示してくれた』今日となつて見れば、『日本が是から取るべき道は、矢張其軍國主義と云ふものを一面に於ては促す原因が非常に多く、又軍國主義に依つて今まで我國が養はれ來つたといふことにも拘らず、否進んで其故に益此の萬難を排して平和主義に向ふより外途がないといふ事になつて來た』が之日本國と雖利害を異にする階級が現に事實として存在し、又この形勢が次第に增大する以上、安つぽい擧國一致が何時迄も政治家の煽動によつて得られるものでないといふ事を考へて見れば、此日本が進んでゆく處の途は平和主義の外無い』のである！　然り、而して先生の平和主義は今日の場合實に窮余の一策に外ならないのである！

七

しかし乍ら止むを得ざる余に出でた窮策をも、深刻高遠なる哲學によつて理想化し淨化し、『嘘をも誠にする處の精神』こそ實に具眼者たる哲學先生の大なる使命であり、本領である。從つてそれは又この一大名論の眼目である！

先生によれば近世文明をもたらしたものも實にこれら古今聖哲の空想の力、『嘘をも誠にする處の精神』の發露したものに外ならなかつた！　例へば『現在の世界の人が非常に恩澤に浴してゐる事業にして未だ嘗て一度も空論でなかつたものはなかつた』『レオナルド・ダ・ビンチが近世の始めに於て飛行機を發明しようと苦心したのも當時に至つては空想で

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

あつた。吾々は淺學寡聞、ダ・ビンチが近代科學的精神の先驅であり、その科學的研究の結果の一として飛行機發明の可能なる事に想到したといふ史實丈は心得てゐたが、『それが人間本性の奥底から泉み出て……本當の人間の要求を滿すものであり、本當に人間の心を喜ばすものであつた』ればこそ、『結局一切の障害反對を克服して實現されたものであつた』とは先生によつて初めて敎へられた所であつた！

先生は更に進んで、『我々は理想の力を信じなければならぬ、此理想の力が強いか弱いかといふことが、平和を來たすか來たさないかといふことの重大な原因となることを思はねばならぬ……物質的現象は心の姿であつて、例へば砲臺とか軍艦とかさういふものは一面から言へば我々の心の現れである。……さればたとへ今度の戰爭の原因が資本主義にあつたにしろ、資本主義といふものを打破するのみで戰爭がなくなるか、例へば資本家の代りに勞働者の專制政治が起つた時に、果して平和といふものが來るであらうか、例へば亞米利加で日本人に對する排斥、或は濠洲で全然日本人を入れない、さういふ態度は決して平和主義の態度とは言へない、寧ろ平和に反對な態度であるけれども、其れは主として白人勞働者のすることではないか』といつて以て具眼先生の深刻なる無智と混亂とを披瀝せられ、更に飜つて『山中の賊は之を殺すことが出來ても心中の賊は却々殺し難い。我々は此平和といふものは結局其心が本なりといふことを改めて切に痛感しなければならない思ふ』と云つて大いに『聖人』の本領を高調せられ、エマーソンの平和論をその立證として芽出度本論を結ばれた。

こゝに於て最初の懸案であつた、先生がどの程度に迄資本主義の原理を理解せられてゐたかといふことは、先生自ら極めて明快に答辯されたのを見る。卽ち先生によれば資本主義に代るものは『勞働者の專制政治』である！　而して勞働者の專制政治が平和をもたらすものでない事は現在日本の移民勞働者が白人勞働者によつて到る處排斥されてゐる事實によつて十分立證されてゐる！　故に資本主義を打破すること必らずしも平和を來たす途ではない！

『噓をも誠にする精神』を以て唯一の能力とせらるゝ我が哲學先生の眼には、『勞働者の專制政治』とは、資本制度の鐵鎖の下に、一個の商品としてのその勞働力を、飢餓の市場で互に競爭し合はねばならぬ運命にある、現在賃銀勞働者の

止むを得ぬ同志鬪ち、そのものの謂であつた！

最後に、吾々はかく迄に迷妄杜撰を極めた愚論を、若くは徒に長々しい駄辯を、謹んで聽講せられたる東都の大學生諸君がよろこんで『拍手』喝采せられたといふ一事を、將來ある諸君り爲に少からず遺憾とするものである。

母への書（遺稿）

三宅信

三宅信君は誰れにも知られてゐない。世間には何にも書いてゐない。彼はそんなことに不滿も何にもなくもつと生きやう、生きてゐるうちにもつとどうかしてやらうとそう思つてゐる時に、市街自動車にひかれ約一町もその重みの（資本主義の）下になつて人の見てゐる前で殺された。

三宅君はまつたく不幸に生れた。いや資本主義とか、ブルジョア國家とかいふものがなかつたら、あんな悲慘な生れ方をしなかつたらう。生れながら父と名乘ることも出來ず、その母は他家へ再緣し、彼は身を寄するに家なく厄介物扱ひにされてしかも、やがて、全身の反抗がプロレタリアのために燃えやうとした時にむざむざ殺された。彼はその時わづかに廿歳を越した許り。時は大正十一年九月廿八日。場所は銀座、讀賣新聞社前。もしあの何ものもぶつ壞そうとした彼が今僕らの同志であつたら。……この一文はその母人への書信である。

拜啓三年前にお別れ申してから隨分御無沙汰致しました。御母さんは御無事で御暮とのこと事に結構でございます。御別れしてから以來の出來事をあらまし御知らせ申し上げます。松本さんはほんとうに御親切なお方でございます。大道義塾の一件事から松本さんを離れて大角さんの御世話になる樣になつたのは今から考へて見れば全く私の間違ひでした。しかし今更そんな事は歸らぬ事ですから心で松本さんに感謝して居る次第であります。一度松本さんと、電車で一

なつたとき私は穴があつたら這入たいやうな心地が致しました。

大道社の生活は全く私を不良なものにしてしまひました。處で話はだいぶ飛びますが昨年の夏大角先生が尼港に出掛けられましたその留守に、種々な理由からして塾生の大部分が一時に退塾してしまひまし。た主なる原因は食物が不味かつたこと奥さんが人が悪い事先生の言行が氣に入らなかつた事などでした。私はこの事に贊成しましたので幾度の會合にも出ました先生が歸られるまで奥様は大變私を力にして此の際誰が何んと言つてもお前さんだけは止つてゐて下さいと念をおして頼まれたので大道社に留つてゐました、所が先生が歸られと同時に先生が私に出て行けと云われました。

その夜淋しく大道社を出ました。それから約半月の間友達の〇〇君の家に世話になつて居りました。その間毎日〳〵新聞等の廣告を見て就職口を探して歩きまはりました。隨分心細い事もありましたが、兎に角現在の樣な仕事に從事して居ります。今の仕事は汽車に乘つて郵便局の仕事をするのです。これは慣れゝば小學校卒業生でも出來る仕事なのですからまあ馬鹿らしい事なのです。數年前お母さんが死んでもいゝから勉强しろと云はれましたその御言葉がなまけかゝる私の心を勵まして呉れましたが時が、たつにしたがつて勉强しても死んではつまらぬなどと理窟をつけてなまけました。私は境遇の關係上、人より一倍依賴心が强く利己主義な人間に養れて來ました。

私の根性は大變ずるくなつて來ました。自分の利益になる間だけ人にくつゝいてゐるといふほんとに〳〵見下げ果てた心でございます。私はあくまで男らしく世の中を渡る事に決心しました。私は林町の家に歸つて來てゐます。おぢいさんは私を學校へやると云つてりきんでおります。しかしそれは出來ない相談です中學校さへやれない老人がよる年波どにうして大學校へやつて呉れる事が出來ませうか。横濱のおぢさんは相不變酒をのんでは金を使つてゐられるらしいです。これから私に月二十五圓づゝ送る約束して呉れましたがあてにはなりません。十五圓の金が毎月私に送れる樣な人ならおぢさんは日本一の金滿家になつてゐます。此んな譯ですからおばあさんは余計私を賴りにしてゐます。私を可愛がつて呉れる愛情は唯一緒に暮してさえ行けば私がどんな心掛でゐやうがそんな事に頓着しないのです。至つて簿つ的ぺらな愛情です。も一つは横濱のおぢさんがあまりにあてになりませんから、老後の世話を私にさせやうと云ふまあ

打算な考へもあるでのす。以上の樣な具合ですから私は此の際全く獨立して生活し勉强しやうと考へて居ります。近い中に實行するつもりです。

約半年かゝつて貯金が百五拾圓は出來ました。月平均四十圓。出先きで食事はしますから家では月十日とは食べませんが兎に角十圓おぢいさんに差し上げますとあとの二十圓は貯金し半分の十圓を小使其の他雜用に致します。三宅の家を去るにしても此の百五拾圓の貯金はおばあさんにのこして行くつもりです。山根さんが新聞社の方に世話して吳れます。もうしばらくで返事が聞かれます。此の手紙と同封でお金を五圓お送り致します。

紀美男も和歌男もさぞ成長した事でせう。私はこれから一苦るしみして人間になるんです。御手すきの時お手紙下さいませ。

ランプの下にて

大正十年五月八日晩

信　拜

母上樣御許に

今度、僕等同志の發起によつて、小川未明、秋田雨雀、中村吉藏三氏の、文壇二十年の苦闘を紀念し、慰勞するため、紀念會を催すことにした。氏等は文壇的不遇の地位にありながら、よく無產階級の爲めに闘つてくれた人である。――尙、本誌は來七月號に於て右三氏に就いて文壇諸家の高見を披瀝して貰ふことにした。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

暴力

前田河廣一郎

おれはある物に手をふれたままたつてゐる。時は夜の十二時をすべつて五分すぎた。つねにはつきりおぼえてゐたはずの町々の地理がどうもわからなくなつた。くろい立體形の林のなかにおれの視力をかすめるものは屋根と壁とにかぎられた星だけである。うるむだ女の瞳のやうな星群は、なぜかしら自分の心を悠久なさびしみで壓迫した。せつなの永遠、生をつうじてあらはれる死——おれのかんがへは瞬間の曲線をゑがいて現實から外れた。しかし星などをみあげてゐる暇がない。とほくの電燈の光をうすぼんやりうつしてゐるかたはらの水磨の圓柱は、あくまで破壞をおそれて凝固した筋肉のやうに、自分の手にかたい觸感をうながした。たしかに大理石の手ざはりである。まがつたおれの右の手は——刄物をおそれる盲人の指先で、ふれると同時に、なんともいへぬするどいいましめにぶるぶるッと顫へた。

觸覺と視力とふつういつぱんの想像力のみではない。なにかしらはげしい本能性のやうなものが指から腦神經と直通したのだ。知るともなくおれはそのものの本體を知つた。さいはひ人どほりがないので、それをすててそのまま立ちさらうとこゝろみた。そのとたんにかすかなテックタックが耳へつたはつた。死人がむつくりおきかへつたのを目擊したやうな恐怖が自分の脚を掬つて去らうとしたのを、わづかに一つの概念に、あやふいところをたちとどまつた。

『…………、…………』おれは夢中でおなじことばをつぶやいた。ちよつとこつけいなかんじをした。まるで羅馬の市民になつたへぼ役者が幕がおちたのもわすれて『シーザー、シーザー』とどうまごゑを發し

てゐるやうでもあつた。とつぜん、すつぱい感じがすべての幻像を頭のなかからうばひ去つた。

『おーい、おーい』と呼むだ。

誰もこない。きさうでもない町はしづかなむしあつい夜にいだかれて熟睡してゐる。こんな一大事がおこつてゐるのに、くさつた安眠をむさぼつてゐる者は男でも女でも子供でもみな――なんといはふか、腑拔けだ、馬鹿だ、狂人だ、おれの心のそこにはふかい、ふかい陷穴のやうな絶望が突現した。たれかが心のそこへおれをうむとつきおとしたやうだ。その結果、おれは一枚のうすい紙だてをへて『死』ととなりあつてゐた。いくたびも穴の口へきては急にひきもどる、あの死と、また、隣接したのだ。おれの想像力の重みがみすみすそのうすつぺらな紙を膨脹さした。いまにも紙はさけさうだ。裂けた、――死、とおもふて我にかへると、……………………………………………………………。時計のダイヤルがみえる、ちらと眞鍮の機械がみえる。あやしいくろいまるい物がしづかに暗を吸つてそのうしろに膨らむでゐる。心臓の壁に三つの穴をあげられて、そこから血がもれてゆくやうな感じに氣がとほくなつた。

のばしたおれの兩手はその物をつかむ躊躇に、いたづらに空にゆがんで膝頭をいだいた。膝はこ氣味がわるいほどふるへてゐる。

秒――秒――秒――秒はかさなる、もう一つ積さむだ、ああまたひとつ。――なんといふおそろしい期待のひびきであらう。…………………………………………。急におれのどこから突發的に、しごく盲目な勇氣がまつすぐにでてきた。おれは爆彈をむんづとつかむで横ざまに町をきつてとんだ。汗などをぬぐふ餘裕はない。靴紐もきれた。杜と扉とのしたを鳥のやうにとんだ。時計はたゆまず執念ぶかく秒をきざんで手のなかに自分をおひかけた。窓がある。電燈がある、屋根がある、馬糞がある、白壁がある、ひろい舖道の平面がある、軌道がある、水道管がある、煙草屋の廣告――空氣はリボンのやうにちぎれておれの帽子をからめとつた。

川があるにちがひない。その川べりまでゆけあいい。よどんだふかい夜の川へそつとおとしこむにかぎる。おれの目も脚も肩も肺臓もみんなそこへ傾注した。空は暗力をたくましうして目的地點をくらました。

『………………。………………!』

おれのこゑは筒ぬけに、まつくらな街をとほりすぎて眞空にをさまつた。時計の音が一秒ごとにはやく、つよく、おれをあふりたてて、一秒ごとに、脚のよわみを警戒する鞭音のやうにかくひびいた。駈けた。駈けた。異常な力がおれを宙にうかして、いま破裂する、そら死ぬぞ、とあふりたてるやうに奥ふかい生の一瞬時間の距離をけしとばせた。……たわいなくねむりこけつた街々は小犬一匹吠えてない。

川岸はどこか――川岸は……とつぜん、…………

……………、、、、……………………………

……………黄ろなくさみが、みるみるそのへんいつぱいにみちわたつた。胃腑の底から、酸つぱいものが湧いて、突如、おれの體をまつたく無感覺にしてしまつた。

『投つたつてだめだ！』

……………、………………………、…………

……。

『………。…………………、…………！……』

おれは死人のやうな體をへろへろと壁をめがけて、はこんだ。(了)

裂片

藤森成吉

△たびたび繰り返さず、藝術家の本質はアナキストだ、アナアキズムの氣もちが強いからこそ、藝術に執着するのだ、現實の世界に滿足してゐられずに、自己心内に沈潛し、あらゆる人生をその根源の相において見ようとするのだ。

△が、この方向は一面だ、藝術家には、もう一つの面がある、彼は現實を直視する、――でなくて、どうして「現實に滿足してゐられない」氣もちが起らう、――批判

し、剔抉する、何人にも増して鋭く。眞個の藝術家がいつも革命家の……然かもその先驅の相を帶びてゐるのは、まッたく此の理由による。

△或る人は云ふ、藝術家の根本がアナキストなら、それで純粹に終始したらいいではないか、それが、ほんとの藝術家らしい生き方ぢやァないか、――さうだ、が、さう云ふ時、すでに論者は藝術家の反面の心理を忘れかけてゐる、狹く局限し、單に消極的、逃避的、反革命、獨善的にならうとしてゐる。

△さう云ふ消極的のテムペラメントの存在も、僕は決して否定するものではない、が、それが少しでも良心の欺瞞、現實の廻避を伴つてゐるなら、又、その言葉に依つて、幾何でも他のより積極的な革命的精神の藝術家を非難する氣もちを示してゐるなら、それは充分反撃する必要がある。

△繰り返して云ふ、眞の藝術家は、何人にも增して深刻に現實を認識する、するだけ、その峻嚴な存在が單なるユウトピア的空想を以てしては一分も動かないことを知る、そこに、彼の新しい革命的精神が湧く、彼が社會思想的にアナアキズムを排し、斷乎たるコムミユニズムの立場を取るのは此の理由にもとづく、それは彼の不純を意味するものでなく、より純粹であり、眞劍であり、明晰であることを意味する。

△僕が、藝術の末席に列りつつコムミユニズムに同意する端的な理由は、ここにある。

△更にひろく、現在のコムミユニストとアナアキストの問題に對する自分の考へを書きたいが、今時間がないからこれでよす。12、4、

文化主義と新宗教主義

武藤直治

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

あのまゝのブルジョワ文化をば根柢的批評なしに、神格化して考へ、その前に拜跪して、ブルジョワ化の萬能を說くのが文化主義者である。獨逸の新理想主義哲學によつて思想的根據を形づくつてゐる彼れらは、餘りに博學ではあるが、彼れらの博學はあるがまゝのブルジョワ文化に對してはそれを根柢的に批評する能力を有してゐない。若し、あるがまゝブルジョワ文化に對して根柢的批判を持つならば、當然かれらは知識階級の特權的地位をすて、文化と知識生活の獨占的地位をすて、プロレタリアの陣營に投じて來る筈だ。

然し文化主義者には、文化と知識生活の獨占の誇りがある。唯一の文化階級としての自己の階級に對する選民的誇りがある。そこにかれらが永久にプロレタリアと一致するところの出來ない致命的陷穽が生じる。かれらが過去の文化的遺產と人類の文化創造生活の意義と價値を力說するのは大して誤謬ではない。然し、知識階級のみがその文化の繼承者でその創造にあづかる唯一の階級であると自負することは飛んでもない錯誤である。更らに過去の文化的遺產と、現代の文化創造生活には餘りに人類のために無要有害なる特權階級的臭味が附け加へられてゐる。プロレタリアは眞に文化そのものを愛し、文化そのものゝ價値を認めるが故にこそ、あるがまゝのブルジョワ文化に對しては憎惡と反感を表明しないでは居られない。あるがまゝのブルジョワ文化は特權階級の優越感を滿足させ、その搾取作用を助長させる以外に役立つては居ない。大多數のプロレタリア階級は文化を享樂することから完全に拒否されてゐるばかりでなく、ブルジョワ文化の發達によつて、搾取作用を增大させられるばかりである。そこに氣付いて來たプロレタリアの自覺分子があるがまゝのブルジョワ文化を呪咀し、破壞を叫ぶの根本の理由がある。然してあるがまゝのブルジョワ文化にはそれに對して自己を辯護する何らの理由をもち合せない。

文化主義者は、その理由のない立場に據つて、あるがまゝのブルジョワ文化を、あるがまゝに肯定して、その絕對價値と權威とを主張しようとするのだから、いくら彼れらの博學をもつてしてもそれは何の意味もない空言となり終る外はない、かれらが過去の文化的遺產と、人類の文化創造生活の價値と意義を認めるならば、それは同時にあるがまゝのブルジョワ文化的缺陷と錯誤を見の

がして置くことが出來ない筈だ。ブルジョワ階級が文化の成果を掠取して、それによつて自己の階級の搾取作用に使用してゐることは、現代文化の致命的缺陷である。文化の享樂が一部の特權階級に限られて、他の多くのプロレタリア階級は、そのブルジョワ文化が在るが故に一層貧困と、不自由と、屈辱と職業病とを脊負はされなければならないといふ現實は餘りに、彼れ等文化主義者が、あるがまゝにブルジョワ文化の絶對價値と權威とについて力説するところを矛盾してはゐないか？

文化主義は明らかにブルジョワ的社會組織が生んだ職業的知識階級の反動思想心理の具體的表現である以外の何ものでもない。

二

シャロック・ホルムスの著者アーサア・コナンドイル卿は最近降靈術に凝り固まつて、神秘的な死後の心靈生活に關する著書と講演をして歩いてゐるさうだ。彼れに云はせるとその新しき心靈主義によつて、此の渾沌たる世界の思想を救濟しようとするにあると云ふことだ。現代のブルジョワ的科學文明と、大戰後の思想の動搖變化に對する不安と恐怖がこの勇敢なる名探偵物語の著者を駈つて心靈生活の神秘を說かしめた。この同じプチ・ブルジョワ的感傷主義は所謂宗教主義の復興となつて我が國にも現はれて來た。

所謂物質文明の破綻、人類生活の精神的撤廢とは一つにブルジョワ階級と…………………………。ブルジョワ階級と…………………、科學文明の所產をもつて、大仕かけの殺人とプロレタリアへの搾取作用とにばかり應用した。その殺人行爲が不安と思想的動搖を將來したのは當然であるが、プロレタリア階級はそれによつて、……………………………………………………………………………なつた。さらにブルジョワ階級の自己的の文化獨占の態度と、その一面の科學文明の應用による益々深酷な搾取作用の實行とは…………………………………………。すでにプロレタリアは自己の階級解放の倫理的意義と、人類歷史に於ける自己の階級の必然的使命とを痛感して來た。プロレタリアにとつては現代は何の不安と動搖と精神的撤廢を感じることがない。反對に人類相互の信頼と愛とを次第にたしかめ、當來の新社會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の曙の微光を認めかけて來た。

たゞブルジョワ階級のみにとつては、自己の階級に對する不信用と、その非倫理的立場の認識から來る不安と心の動搖とを禁じない。かれらは當面の闘爭の感急的救濟策として宗教と神の信仰を擔ぎ出して來た。亡びゆくブルジョワにとつてはそれらが彼れら自身の慰藉と魔醉劑として役立のかもしれないが、プロレタリア階級にとつて、既成宗教や神の觀念などは過去の歴史的意義以外には何らの直接の生活的現實的價値をも見出すことは出來ぬ。プロレタリアは自己の文化を創造す可く決心して居るのだ。過去一切の文化的遺產に對して、根柢的批判をもつて改造しようとしてゐるのだ。既成宗教や神の觀念に對しても、同樣にプロレタリアは無產階級文化の立場よりしての根柢的批判をもつて改造を要求して止まない。若し、既成宗教や神の觀念がその改造に堪へぬならば、プロレタリアは潔ぎよくそれらを振りすてる外はない。(完)

「火」を評す

「改造」中村吉藏氏の作。相變らずの吉藏式である。巧い會話で終りまでよませるが最後の所でお芝居になり歌劇になる。こんな社會劇はないと思ふ。かうしたら面白からう式の脚本である。喜劇である。

中岡と言ふ慶應の學生らしい青年は、きくのもきざであり、白い細い生やさしい不良青年になつてゐる。或ひは作者自身の苦い時の姿らしくも見える。吉藏氏のものに出て來るきまつた人物である。これを喜劇と見るならばいゝが社會劇としてはあまりに薄弱である。

とき子は好く表はれてゐるが、最後に

(とき子頷きながら、涙ぐんだ調子で)私も貴方と一緒に燒死ませうね。(中岡を堅く抱いて、接吻する)

に於いては、あゝ嫌やだ〳〵吉藏式である。(松)

――この稿は批評欄に這入るべき筈のところ、組違ひの爲め特にこの欄に置く。――

巴里通信

アンリ・バルビユスは、このほど正式に佛蘭西共產黨に入黨した。

「クラルテ」序文

『神は存在しない……然し否。此の世にはたつた一つの神が存在する。人類がその生を正當に導く爲めには、この秩序を秩序であらしめるためには、斷じてそれから目を外らして唯一の神が存在する。それは眞理と呼ぶ神である！』

玆に謂ふ眞理とは、然らば如何なるものであるか？……民衆にとつて、人類の大多數にとつて、眞理は一つしかない。然もそれは、極めて簡單な眞理である。眼を開きさへすれば、何人にも見られる手近かな眞理である。

『だが、その簡單な手近かな所にある眞理を見ないものが澤山ある……何故か？』

君が若し、斯やうな質問を發するならば、君は斯く質問する前に、先づ君の靈魂と君の精神とに執拗く纒はりつくあらゆる過去をふり捨てねばならない。あらゆる傳統の亡靈を滅ぼさねばならない。あらゆる過去の暗闇が、あらゆる傳統の亡靈が、手近かにある簡單な眞理を君に見せまいとするのだ。眞理の發見は、『天才』にのみ俟つべきではない。否寧ろ、『天才』といふ言葉がエクセントリックな意味を含むとき、その天才のみによつて見出さるる眞理は、遂に『天才』にのみの眞理である。眞の唯一の眞理は、大多數の凡人の持つべき眞理であり、凡庸な民衆の多數が持たねばならない眞理である。その眞理は、君のすぐ目の前にある。君のすぐ手近かにある。眼を開けばい〻のだ。あらゆる過去の暗闇を振り捨て〻目の前を直視すればい〻のだ。

『クラルテ』の主人公シモン・ボオランは、洵に平々凡々たる民衆の一人に過ぎない。君が、電車の中で、街の中で、會社の中で、官廳の中で、いつでも、何處でゞも、君の周圍に見出し得るあの平凡な、世間並の腰辨に過ぎない。その彼によつて發見され、その彼によつて叫ばれる眞理こそは、とりもなほさず、一般の民衆によつて發見され、一般民衆によつて叫ばれる眞理でなければならない。其處に、敢て『天才』を拉し來らずして、却つて、一介の平凡な腰辨シモン・ボオランに眞理を發見させたバルビユスの深い用意があり、作家としてのバルビユスの明白な立場がある。

『この小説は面白くない。』と君は云ふかも知れない。君が若し、『眞』よりも『嘘』を愛し、『光（クラルテ）』よりも『闇』を愛し、『秩序』よりも『無秩序』を愛し、『愛』よりも『憎しみ』を愛し、『正義』よりも『不正』を愛し、『平等』よりも『不平等』を愛し、『自由』よりも『鎖』を愛し、『平和』よりも『戰

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

争』を愛し、そして最後に『人間』よりも『神』を愛するならば、然り、この小説は面白くないであらう。

然しながら私達は、聊かも躊らふところなく、聊かも卑下するところなく、敢然としてこの小説を君に勸める。これこそ、今日の社會に生きてゐる君が、是非共讀まねばならない小説なのだ。これこそは、過去の傳統と偶像とによつて自分を失なひかけてゐる君が讀まねばならない小説なのだ。これこそは、將に曉の光の前に立たうとしてゐる君が讀まねばならない小説なのだ。私達は、この私達民衆の聖典を、今君の前に捧げ得たことを、心の底から悅ぶ。そして君にも悅んで貰ひたい。

この小説が初めて現はれた翌年、即ち一九一九年に、アンリ・バルビュス、ブラスコ・イバネス、ジョルヂ・ブランデス、アナートル・フランス、エレン・ケイ、アプトン・シンクレア、エチ・ジー・ウエル、ステフアン・ツヷイグ、ロマン・ローランその他の大思想家、大藝術家等によつて、この小説の意を體する『クラルテ團』(Le Groupe Clarté)と云ふ思想團體の具體的な運動が現はれたことによつても、この小説が歐米の思想界藝術界に、如何に大きな波紋を投げかけたかゞ分るであらう。(この『クラルテ團』の發生並びにその運動の經過に就いては、吉江喬松氏と小牧近江との共著に成る別冊『ロマン・ローランとアンリ・バルビス』に詳述してある。『クラルテ』を讀んだものは、是非共この別冊をも一讀して貰ひたい。)

この小説は、一昨年即ち一九二一年から、飜譯に取り掛り、屢々豫告ばかりして然も中々完成の域に達せず、遂に足掛三年の長日月を閲して、今日初めて上梓される運びに到つたのであるが、その間、私達が叢文閣主足助素一氏から蒙つた好意は、私達が到底忘れることの出來ないものである。私達は、今この書を世に送り出すことの出來る悅びが大きいだけそれだけ、一層深く足助氏に感謝したい。然も、この書を日本に紹介するといふことは、單に私達二人の個人的な仕事ではなく、私達の今日の生命である雜誌『種蒔く人』同人全體の義務であつたのだ。その義務を、今私達に遂行させて下さつたことに對して亦、私達は『種蒔き社』の名に於いて、更に二重の謝意を表せずにはゐられない。猶ほ、本書を譯出するに當つて、直接間接に私達を援けて下すつた奧田嘉治、山内義雄、の兩氏に對しても私達は心から御禮を申し上げる。

飜譯は、小牧が滯佛中、クラルテ出版記念會の席上、作者バルビュスからの飜譯を委任されて直接手渡された一九一八年の初版本のテキストとし、そのうち抹消されてある所は一九二〇年の第八十版本を以つて補ひ、且つ傍ら、奧田嘉治氏が英譯より重譯されしものを參考にした。

『光』(クラルテ)は靜止せる光ではない。永久に動く光である。今、私達の同胞の間へ、この光が動きかけて行くやうになつたことを、私達は心の底から悅ぶ。

一九二三年三月七日

種蒔き社にて　小牧近江　佐々木孝丸

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ロシアの小さき同志を救へ

相ついで起れる Catastrophes——戰爭、封鎖、飢饉——は罪のない何十萬の兒童を家なしに、孤子にし、飢ゑさせ健康を破壞した。嗚呼それは何人の罪であつたか、僕たちは餘りによくそれを知つてゐる!

戰爭——歷史上最初の無產階級國家をあの資本主義諸政府の犬であるコルチヤツク、デニキン、ウランゲル、セメヨノフ etc, etc の魔手から救はんと邊疆に出征した父親たちの多くは遂ひに再び還らなかつた。

封鎖——『犬』たちの失敗を知つた資本主義諸政府の次に採るべき手段はこの封鎖であつた。彼等こそ文明を破壞すべき惡魔ではなかつた。

飢饉——それは餘りによく知られてゐる。旱魃、內亂、封鎖、わが子のため一片のパンの殼でも探し求めんと家を彷ひ出た、飢ゑきつた父親たちは遂ひに還つてこなかつた。

諸君よ、プロレタリアの子たちよ! 何十萬といふ新時代の(ニユーゼレーシヨン)子——ロシア革命の相續者——は今や滅亡に瀕してゐるのだ。もしもソビエツトロシアにして生存すべきものであるならばこの兒童たち亦生存すべきものではないか。未來は兒童たちの肩にかゝつてゐる! これら無數の兒童たちを收容し、これに家と食物と養育を與へるのは、僕たちプロレタリアの義務でなくて何んであるか。

僕たちはこの仕事のために諸君の時間と金とを要求する。第一、諸君自ら一人の孤兒を收容せよ、第二、他の私人或は家族に一人の孤子を收容する樣に說服せよ、第三、諸君の勞動組合諸君の友愛的、社會相、慈善的團體として、一團の孤子を收容する樣に說服せよ。

諸君よ、諸君は即刻この仕事を始めればならない。憐れな孤獨な、飢ゑたる兒童たちは今や暖き椅子と、一片のパンを諸君に嘆願してゐるではないか。諸君よ、諸君の金は奇蹟を齎らすであらう!

ロシア兒童救濟具體案

一、ロシア舊貴族の邸宅を改築して各戶に百人宛の兒童を收容し、十戶を a children' scolony と稱して病院を一つ附屬せよ。

二、兒童一人當りの設備費が約十圓、一人當り一ヶ月雜費維持費約四圓である。

三、本社は第一期計畫として兒童五人一ヶ年維持に從ふ總費二百九十圓である。

（御寄附下さつた方には一々受領證を差上げませぬ代りに本誌上で報告します。――責任者……）

規定

一、兒童五人設備費並に一年維持費合計二百九十圓を以て第一回送金とします。

二、寄附金額には制限はありません。

三、送金方法は成るべく振替を利用されること。

四、設備費に幾何、維持費に幾何と分けたい方はその旨明記されること。

五、毎月一人當り維持費（四圓）を出す餘裕のない方は毎月半人分（二圓）又は四半分人分（一圓）或はそれ以下でも毎月つづいて送金下さればこの救濟運動の眞精神に合致するでせう。併し毎月一定額送金して下さる方はそれを豫約する旨を附け加へて下さること。送金は向ふ一年内を以て第一期とす。

六、この救濟運動を全國化する一方法として地方の讀者諸君が中心となつて兒童の二人でも三人でも救濟する會を作つて頂きたいこと。それと本社とは連絡をつけること。

七、用件は種蒔き社ロシア兒童救濟宛照會して下さい。

一九二三年五月

東京市外千駄ヶ谷穏田一〇一
（振替口座東京五九三八七）
種蒔き社
責任者 平林初之輔
秋田雨雀
監督者 有島武郎

寄附者芳名第三回報告（四月五日〆切）

神馬喜助	（東京）	金一圓
佐野袈裟美	（同）	金一圓
佐野夫人	（同）	金五十錢
富樫浩	（同）	金一圓
小島健三	（同）	金一圓
齋藤量三	（同）	金一圓
鷹谷信行	（同）	金一圓
池田よう子	（同）	金五十錢
池田慶四郎	（同）	金一圓
藤田玄智	（秋田）	金五十錢
寄集社	（東京）	金二圓（毎月）
前田河廣一郎	（同）	金一圓
前田河夫人	（同）	金五十錢
武藤直治	（同）	金一圓
武藤雪	（同）	金九十錢
武藤起人	（同）	金五十錢
畠山松治郎	（秋田）	金五十錢
赤石憲太郎	（同）	金五十錢
牛丸兵、衛	（同）	金五十錢
近江谷友治	（同）	金五十錢
柿崎保之助	（同）	金五十錢
近江谷榮之助	（同）	金五十錢
白土義有	（東京）	金一圓
白土幸子	（同）	金五十錢
白土五十子	（同）	金五十錢
白土義孝	（同）	金五十錢
白土義則	（同）	金五十錢
白土義男	（同）	金五十錢
小計		二十圓五十錢
總計		五十二圓八十錢

青年部の成立

四月二十二日夜、本社に於て青年部成立の披露會と共に、新同人加入の初會議を兼れて協議會を開いた。この會は、他にもいろ〳〵の目的があつた『種蒔く人』の使命としての今後の事業なども。勿論劃策された。

會するもの初之助、光造、小牧、季吉、洋文、弘二、それに廣一郎、袈裟美の新同人——伊之助入獄中とあつて、參加しようにも參加出來ず、亮亦北陸の田園に奔命中、賢三は母堂の死報に接して秋田へ歸り、其他正俊、淳三、孝丸、正夢、日乃樹、虎雄、は差閊へが出來て缺席。

種蒔き社の青年部は成立した。青年部は今三十人ばかりの部員がある。皆活氣に滿ちた有望の闘士である。青年部は、本社同人と協力して、青年部としての運動や仕事をすることになつた。吾々は青年部の健全と士氣とを希つた。

それから、當夜は編輯、及び事務、會計等の役員の再選擧を行つた。滿場異議なく、左の通り決つた。總て再任といふ形だ。——これは、今後その責任、及び諸般の運轉を明かにするために、此處に記載することにした。

編輯事務　青野季吉
援　　助　松本弘二
會計事務　今野賢三
　　　　　青年部ヨリ一名

二足獣の會

この度同人の松本淳三が、日本の所謂瞑目合掌のセンチメンタル詩人達への爆彈として『二足獣の歌へる』を投げつけたので、それを記念するために去る四月四日の夜、銀座カフエー・パウリスタに於て發企人小川未明、前田河廣一郎、新居格、諸氏の手で盛大なる會が行はれた。勿論種蒔き社からは小牧近江、青野季吉、上野虎雄、平林初之輔、津田光造。の五人が出席して同志のためにいろ〳〵な援助と祝盃をあげることを忘れなかつた。小川未明、宮島資夫、前田河廣一郎、小牧近江、岡本潤、諸氏の虹の如き氣焰は會する多ふくの同志のあたゝかき結合をつよく深くしたに相違ない。同人松本淳三のために、信愛なる讀者諸兄よ、詩集を一册でも多ふくぜひ讀んで貰ひたいと懇願する。（松本淳三著、詩集『二足獣の歌へる』定價一圓、振替東京た五五一〇番、東京神田區表神保町十番地自然社）

啄木の會

どん底の貧乏のうちにありながらも虐げられたる魂の叫びをあげずにゐられなかつた、若くて死んだ革命詩人石川啄木の十二周忌の四月十一日、今年からは新らしき意味に於て愛慕の心を深くするために、その夜銀座カフエー・パウリスタに新居格、小牧近江、松本淳三、武藤直治、諸氏の發企で懇話會が催された。會するものの多ふくは青年達であつた、盛大にも九十餘名の人達は口をそろへて無産階級解放運動參加の誓言と石川啄木追悼の熱意を絶叫とともに披瀝した。翌十二日は本郷追分帝大キリスト教青年會館に於て講演會が行はれた。街頭にたちて思想の行商を行ふことを忘れない種蒔き社同人からは松本淳三、上野虎雄二氏が出席して無産階級詩人新島榮治諸氏とともに新興藝術の意義と石川啄木との意志を市民に宣傳した。

石川啄木は死んだのではない。僕たちの胸に立派に生きてゐる。僕たちは足を大地にふまへて飽迄ブルヂョアヂイと戰はねばならない。

同志よ、あせることなく、荊棘の道をおそれることなく、無産階級解放運動に進まうではないか。（信行）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

批評欄

愚劣なる空論を排す

レニンはかの有名な「國家と革命」(それはレニンの數多き著作中、最も理論的に、最も簡明に、彼の立場、ボルシエヴイズムの根本義を披瀝したものだと云はれて居る)の序論に於て、如何にもレニンの人物を偲ぶに十分な言葉を洩して居る。――『此の小著は一九一七年の八月に於て書かれたものである、私は既に次の部分、即ち第七章に「一九〇五年及び一九一七年の露西亜革命の經驗」を書くことに著手して居た。然し、その題號の事から離れて、私はその章の一行をも書くことを得なかつた。と云ふのは、一九一七年の十一月革命の夕べーなる政治的危機に妨げられたからである。かくの如き妨害は歡迎さるべき唯一のものである。然し本書の最末の一九〇五年及び一九一七年の露西亜革命の教訓を取扱つた一章は、多分書くことを永久に延期するかも知れぬ。革命の經驗に生きて居ることは、其を書くことよりも、より愉快であり。より有效だから』と。(文化學會發行「レニンの社會學説」からとる)

之れを讀んだ時、僕は如何にも革命家らしい事を云つて居るなと、その革命家的氣魄に打たれ、その人物をこの上もなく尊く思つた。科學者が或る眞理の實驗の結果を世界に報告すると云ふ意味で、レニンも革命の眞理を實驗し、その結果として得た樣々な高價な體驗からの教訓――それは慥かに人類が經驗した振古未曾有の教訓――を書いて、世界に發表し、人類に報告したかつた事であらう。しかもそれは、「一九一七年の十一月革命の夕べーなる政治的危機に妨げられ」て、果し得なかつたのである。そして「かくの如き妨害は歡迎さるべき唯一のものである」とかれは言つて居る。さうだ。それほど教訓はないのだ。かれがものした「國家と革命」なる論文が、如何に立派な著作であるにしても、「革命の事實」には及ばないのだ。「革命の教訓」の報告が、どんなに高價なものであるにしても、「革命の事實」には及ばないのだ。無產階級を社會の正面に立たせたと云ふ事實、たしかにそれは

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

有史以來の一大事實、人類への絶大の教訓、之れに過ぎたものはない。それ以上の教訓が何になるか。レニンの百のお說法よりも、この一つの事實の方が效き目がある。この一つの事實の報告に依つて、レニンの實驗の成功を否認し得る者は世界に一人もない。「革命の經驗に生きて居る事は、其を書くことよりも、より愉快であり、より有效である。」その通り、その通り。「一九一七年の露西亞革命の教訓を取扱つた一章は、多分書くことを永久に延期するかも知れない」。それでいゝ、それでいゝ。さうしてくれ給へ。僕等は決してその「革命の事實」以上のものを君に要求しない。僕等はもう著作家たる君を要求しない。著作家たるよりも、革命家たることの方が、啻に君に取つて愉快であり、有效なことであるばかりではなく、それは僕等に取つても、その方がどれだけ愉快であり、産有效なとであるか知れない。君は革命を實行し、無階級の解放を現實にしたと云ふ事實を世界に殘して置けばそれで澤山だ。それ以上の事は何にもしてくれないでもいゝ。それ以上の事は何にも教へてくれないでもいゝ。いや、それ以上の事を君が今僕等に向つて說いてくれる事は、僕等には寧ろ迷惑な事だ。それ以上の事になると、まだ革命を一度も實驗した事もないヒヨウ〳〵野郎共が、好い氣になつてノサバリ出て來て、もう革命を二度も三度もやつた樣な氣持ちになつて、浮れ出して來て、革命後のロシヤが何うのと、自分がまだ……………………………忘れてしまつて、ボリシエヰーキの政策が好いの惡いのと、小田原評定に日が暮れてしまふ樣になるから、まあ控へて居てくれ給へ。資本主義の中央集權の……………………………、……………………、まだ建ちもしない無産階級の中央集權の倉を倒せなんどと力みかへる氣の早い日本人の事だから。誰れも彼れも議論好きで、議論だけは人並にやり、人の惡口を叩く事は、人並以上に達者にやるが、さて、實行と云ふ事になると、意氣地なしで、臆病で、目先きが利き過ぎて居るから、一身を社會の犧牲として投げ出す樣な、大馬鹿な事は中々やり得ない。社會主義者だと云つても、その實個人主義者が多く、自分の生活、自分の仕事、自分の著作、自分の藝術の事ばかりクヨクヨと氣にして居る。俺の藝術が現代に持て囃されるだらうかとか、俺の藝術が後世に殘るだらうかとか、永久に人生に光りを放つだらうかとか、さう云ふ事が重大關心

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

事であつて、全階級的な問題や、革命の仕事に、我が身を忘れて打込む程の熱心がない。階級的な愛情がない。相互扶助の精神がない。階級的な愛情がないから階級的な憎悪がない。階級的な憎悪がないから階級的な團結がない。階級的團結がないから階級的行動がない。そこにはたゞ個人的憎悪からの行動があるのみである。社會主義者だと云つても、之れでは一向に社會主義者らしくない。(光造)

『戀と牢獄』を讀む

太陽四月號掲載

好漢江口渙、太陽四月號に珍らしくも長篇を書く。かねて噂に聞いた社會主義的不良少年とかの裏面をアバイたものださうだ。僕、大に好奇心を誘起られて、旅中匆匆の間に寸暇を盗んで、これを讀む。讀み終つて、まづその甘さに吃驚し、續いて如何にも安價に書きとばしてあるのに驚歎し(嘆の誤字に非ず)、まるでアプトン・シンクレアの劣作の見本を讀ませられたやうに、力抜けがして終つた。

往年、馬賊的社會主義者として、文壇に風雲を捲き起した渙江口の面影、今何處やと言ひたくなる。那須の溫泉は、かくまでに靈驗著るしきかと、僕は思はずも感嘆した次第である。嘗てはデリケエトな描寫と、陰影の多い複雜な病的心理の解剖とを見せて、その評論に於けるとは、全然反對の素質を見せたことに於て、未來を囑せられ、更らに中途にして社會運動に投じて一世を震駭?せしめたにも拘らず、今や龍頭蛇尾、僅かに文藝春秋座の輩と伍して、文壇白虎隊征伐に寧日なからんとしてゐる。しかも那須溫泉に浸つて靈筆を呵すと雖も、最早や昔日の面影なく、辛うじて日本のシンクレアとの評を獲得する位である。今日、プロレタリアの名を冠する文藝の士の簇生すること、空前にして或は絶後ならんも知れず、江口渙の後輩にして、既にプロレタリア作家として盛名を縦にする者、一二にして止まらぬ。志士江口渙たる者、今日悠々自適して、白虎隊征伐に、憂身をやつす時機ではあるまい。彼と雖も、それを覺つたればこそ、遙々と那須靈泉の中より捻出して送つて來たのが、この長篇であつたのである。

「戀と牢獄」はたとへ、それは愚作なりとは雖も、亦中

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

中にすて難き風情もある。その全體を通じて、サッカリン入りの如く甘さに富めるは、彼の狡智、大に文學青年をひきつける爲めの策略か、然らずんば靈泉の效果著るしく彼の彎骨を蕩かしたに依るか、その何れかである。然しながら、事の此處に至つた原因は、決して彼のズルさに依るのでもなければ、その本來の甘さに依るのでもない。唯物史觀の說明に待つまでもなく、好漢江口渙をして、かゝる愚作を發表するに至らしめた原因は、遠くこれを逆つて、現代社會組織の惡結果に依ると判決すべきである。とは云へ、江口渙たる者、「だから俺はこんな愚作を發表してもいゝんだ」と意を安んずることはイケない。たとへ唯物史觀で何う無理强ひをしようと、愚作は依然として愚作だ。ところどころの描寫にうまいところがあるが、それも安普請の家屋のなかに、たまたま思ひ懸けもなく檜材でも混りこんでゐるやうなもので、そのために却つて家屋全體の安價さがハッキリとするやうなものだ。「戀と牢獄」中で、光彩のある所は色事の場面だが、その爲めに尙ほのこと全體の甘さがハッキリと知れる。これでは大正の默阿彌物だ。否そこまで行けばいい方だ。甘さに於て默阿彌以上だ。これでは文學青年や、社會主義かぶれした學生連に歡迎されて、江口先生となることと疑ひなし。

さはさりながら江口先生よ。この作で、無政府主義者江口渙がボルセビキに對する平素の欝憤を晴らしたつもりなら、それこそお氣の毒さまながら、大間違ひの眞中だ。的ッぱずれで、いゝ氣になるには少し早すぎる。そんな謀逆心は起さずに、やはり文壇白虎隊征伐で勇氣凜凜としてお出でなさい。餘り乘り出し過ぎると、「好漢」の名に汚れがつきます。プロレタリア文壇、眞に人無き今日、江口渙の自重加餐を祈る。（旅中匆々の間、辱知亮生）

アナとボルの爭ひ

俺はアナだ、俺はボルだと云ふ立場から、等しくプロレタリアの解放を志す同志の間で、最近頻りに激論が行はれるのを見受ける。がさて、さう云ふ議論に耽つて居る人其人が、アナーキストらしい或はボルシエヴキストらしいどれだけの事を仕出かしたかと反省して見ると、どれもこれも自稱アナーキスト或は自稱ボルシエヴキス

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

トの類で、實際滑稽の感がある。バクーニンがアナーキストでレーニンがボルシエヴヰストだと云へば、如何にもさうだとハッキリ分るが、バクーニンやレーニンの樣な實際の仕事を何に一つし出かしもしない中から、俺はアナだ、俺はボルだと自分で勝手に決め込んで、その自分の概念に囚はれて居るのは見苦しいものである。

自分はアナと決めてしまつたから、ボルの樣な行き方を取りたい場合でも、そのアナたる概念の爲めに遠慮したり、或はボルと決めてしまつたから、そのボルたる概念の爲めに、アナの行動に出でる事を躊躇したりする樣な事になつては、實に窮屈で、自繩自縛の悲哀を感ぜざるを得ない。お互ひに自分の概念に囚はれたり、その概念の爲めに死ぬ樣な事はしたくないものだ。

そこで僕は無產階級の解放上、アナでもなければボルでもないと云ふ事にする。と云ふ事は僕はアナでもあり得れば、ボルでもあり得ると思ふからである。僕が果してアナであるかボルであるかは、僕自身が俄かに玆で決定し或は斷言したりする限りではない。それは後世の公平私無な史家の批評を俟つて初めて決定せらるべき事である。將來僕がアナーキストとして死ぬか、ボルシエヴヰストとして死ぬか、そんな先の事は、今の僕には分つても居ないし、また分つても分らないでも、何うでもいい事である。(光造)

讀書後

平林初之輔君の「プロレタリア文學綱領」はこの三月靑野季吉君か「解放」で發表した「藝術の革命と革命の藝術」とともにプロ運動にとつて必須の文字だと思ふ。それであるのに「プロレタリア文學綱領」は日本評論社發行しての種のいゝものを最近しきりと發表してくれり茂森唯士君に大に感謝していゝかの世界パンフレットといふ會員の他非賣品であるため、多くの人々に知られてないことは殘念だ。それから四月の「進め」に收められてゐる山川均氏の「ある靑年に答ふ」も一般に行わたつてゐないことも殘念だ。これらの小論は、自からの形式でもう少し行きわたるやうに出版されていゝものだと思ふ。

秋田雨雀氏の偏盲禮讃（解放）は近頃の氏のもの〻中で好きなものだ。殺された主義者らの死骸の上に花賣女

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の花の代りに、あの狂暴な民衆の土足でもつともつと踏みねぢらしてもらひたかつた。ヨッフエの論文の譯文の妙といつもながらの改造社の努力に感心した。それにしても、如何に商賣とはいへ、あんなにまでいぢめ散らすは少し酷ではなかつたかと思はれた。（小牧）

地獄から歸つて來た少年の話

金子洋文著

こんどこそ、プロレツトカルトの立場から無産少年の讀物を書いて見せると力んで、それをとう〳〵實現してくれたのが、こんど大鐙閣から出版された洋文君の「地獄から歸つて來た少年の話」である。元來かういつた少年のための思想宣傳は必要がのつぴきならぬものであるが實現も中々容易でない。金子洋文君は已にこの種の試みを實業の日本社からも出してゐるが、こんどのにはそれ以上に色合をはツきりさせるための可成りの苦心の跡が見られる。それだけ、いつも何ものもすなほにさわさわと書きこなす洋文のものとしては多少かたくなつてゐるやうに見受ける點がないでもないが、それでゐて決して途中から讀書をやあさせるやうなものでは決してない。中程まで讀んでくると、知らず識らず引づられて行つて一氣におしまひまで讀み、更らに次ぎの出版を待たせる。なぜさうであるかといふと、實際が思想的なものでありながら、ちツとも教訓らしいところがないからである。在來の二種の人間の取扱方、金持と貧乏人といふものを持つて來て、遂ひに「金持が貧乏人を惠ぐ氣になりました」といつためでたしめでたしでも、また「貧乏人が勤勉の結果大金持になることが出來ました。皆さんも負けずに働いて大金持になり、たんと貧乏人をいぢめなさい」といつた金王主義でも、また「二宮尊徳も渡邊華山もみんな貧乏人でした。親孝行したい人はまづ貧乏人におなりなさい」といつた教訓でないのである。彼は材料を科學に求めて、「働かざる者は食ふ可からざること」と「田地は耕す者のものであること」を說いてゐる。そして、こゝでは蟻の生活によつて人間の蟻に劣つた巧利的動物であることを知らしてゐる。著者は、「蟻の世界は實に立派であるといふことです。小さい蟻の體內には人間以上の立派な精神が宿つてゐるといふことです」と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

いつてゐる。また、著者によれば、人間も蟻と同じく、勤勉で、且つりかうであるが、人間の性質のよくないことは慾といふ蟻にないところの悪いものを持つてゐることである。そして、その慾のためにあらゆる禍が地上におきてくる。例へば戰爭などはたしかにそれがための禍であるといふ。

「慾の深い人たちの口車にのつて兄弟同志殺し合ふのを見てお母さん（大地）はすつかり怒つてしまひました。戰爭は何千萬の兄弟をむだに殺してをはりを告げました。そこで自分たちは慾の深い一部の人にだまされてつまらぬことをやつたものだと、しみ〴〵後悔しました。世界の百姓や、勞働者や若い人たちは皆戰爭の悪いことを叫んで平和を讃美し一生懸命自分の仕事に精を出しました。」（蟻の娘が話したお伽話）

これなどは洋文のねらつた非戰思想の最も面白いところである。蟻の戰爭といへば、オギユスト・フオレルの「蟻」研究は面白い。フオレルによれば、蟻には人間生活にあるやうなナショナル相性がちつともない。この點は同じ蟻の生活の研究でもナショナル張りのアンリ・フアブルの昆蟲記とは異つたところだ。尚ほフオレルによれば蟻の社會に戰爭があつても、強い方の蟻の國家が一度敗北側の他の蟻の國家が武裝解除ときまれば、人間社會のやうに（朝鮮や印度のやうに）負けたものを殺したり苛酷の取扱を決してなさぬさうである。

今後とて、科學と思想の兩方面から小さき世界を開拓しようとするのが金子洋文の理想らしい。そして、これがプロレツトカルトのために書き上げた第一の試である。プロレタリアの父兄特に教員諸君は是非とも本書を一讀せられ、今後のための金子洋文君にかういふところは子供の讀物としてかうありたいとか注意される點があつたら遠慮なく直接さういつてやられたら著者のよろこびはそれに過ぎぬだらう。（小牧）

話が違ふ

――ブルジョア少年團へ――

先達、本郷座で民力涵養會と、東京少年團と松竹合名會社との聯合の會があつた。その時の少年團副團長、内田嘉吉君の演説に曰く「少年團は決して、軍隊の模倣ではない。模倣の樣に見えるのは只外形に表はれたる形式

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

だけで、寧ろ私達は軍隊敎育に反對である。一定の形にはめて味氣のない軍隊生活は子供の時から何も敎へる必要もなく又、陸軍當局でも、少年團に對しては、その必要をみとめてない樣である。我々全國の少年團は、形式をさけ、專ら少年自身々々の個性の發達に注意し最も愉快に快活にその少年時代を過ごさせたいが爲である。この點よく世人の誤解を正しておきたい。尙共同精神の必要の外、家庭間の不和の事も皆この愉快なる少年團の空氣の爲、少しも少年自身を傷ける事なく日を過ごされると思ふ。此上が卽ち我が少年團の設立した理由である。云々」と。

そして間もなく少年團募集用の活動寫眞フヰルムがあつた。三四十人の東京少年團員が皆愉快さうに野營地を走り廻るのである。そして斥候が來たり、擧手の禮をしたり、後藤團長がひよこ〳〵歩いて來たり、皆ちつとも軍隊らしくなかつた。内田嘉吉君達は皆少年の冒險性を利用して、模擬戰とかで、行衞不明の團員を山中分けて斥候たちが走る。皆愉快さうだこと〻一々擧手の禮をして、敵は二〇三高地なり的にする。途中困つた老婆の荷物をもつてやつたり、婆さん達の切符を買つてやつたりする。然し内田君は言ふ

「然し少年團員は決して人助け許りすると言ふのではありません」と。

さて、一同搜索隊もかへつて來ると、一同非常に嬉しくなつて、さゝやかな天幕に寢るのである。その前に、本營らしい天幕の上に高い棒を立て〻その上に日の丸の旗を立てる。この所艦上で、日の丸の旗をマストの上にあげる時に水兵一同擧手の禮をする樣に、我少年團員も、野營地の上に、(日の丸をサラ〳〵と上げると、少年團員の眼は皆一樣にその上に注がれ、最敬禮である。オーケストラーは、哀音深く莊嚴なる、「君ケ代」の歌をひき始めた。いたいけな少年團の姿と「君ケ代」の歌とそして、ヒラ〳〵と段々上つてゆく日の丸の國旗とで、今野賢三氏でなくても、觀衆一同の眼はたゞ〳〵感激の涙にひたつた。悲しい調とそして、「み國の爲なら?」と思つたのである。民衆藝術の興奮を味つたのである。

……………………

私は之れなら話が違ふと思つた。まるでさつきの演說と話が違ふと思つた。(寸見生)

大衆の創造性

東北のある田舍から來た青年は、私に次の如き事實を語つた。

「私は田舍に埋れてゐる多くの青年と同じに、何とかして東京へ出度い。都會で華やかな生活がして見たいと日夜に、あこがれてゐたのです。しかし私の家は貧乏です。小作人の父を持つた私が、どうして中央へ乘出すことが出來ましやう。さうは思つても、あこがれと云ふ奴は妙なもので、何とかして、何とかしてと思ひ續けてゐたのでした。仕事も手につかぬと云ふのが、その時分の私でした。その時には、實際、私を引き止める田や畑がにくくてにくくて仕方がないのでした。見るから灰色なドンヨリとした田や畑や沼を見ると、私を引き止めて離さぬ運命のやうに呪はしく思つたのです。ところが私の村にも小作爭議が起りました。私は、勿論、小作人のせがれですから、その中に混つて地主と戰ひました。そして二ケ月の間、生れて始めて、習慣も道德も無視して、地主をたゝき付けるためにやつて見ました。不幸にして爭議は私共小作人の敗北に終りましたが、その二ケ月の間に、私が足を下してゐる田や畑や沼に對する私の心持が、すつかり變つてしまつたのです。私はこの爲めに彼等地主と戰ふのだ。私の强味はこの田や畑や沼にあるのだ。といふやうな氣持がハッキリして來て、それからといふものは、以前には灰色なドンヨリとしたものに見えた田や畑や沼が、こんどは何となく明るいものに見えて來たのです。いくらでも私の生命を伸ばして行つてくれるやうに思へて來たのです。モウ私は安心して田舍に居れます。いや、本統に自分のものゝ爲めに戰ひます。何だか急に生き甲斐があるやうな氣がして來ました。」

私はこの一青年の話を、最近に無い興味を以つて聞いた。この話は味へば味ふほど意味があるではないか！

彼は長い間、都會をあこがれてゐた。そのあこがれは、必らずしもロマンチツクな若い心の必然な動きではない。それは都會の文化の誘惑に乘つて、借りものゝ感覺と借りものゝ要求と、借りものゝ眞理とに痲痺してゐたからである。その借りものゝ感覺で眺めた時に、田や畑や沼は、灰色ともドンヨリとも見えたであらう。彼は實に若い一個の學遊病者だつたのである。

然るに、彼から一切の借り物を返却させ、與へられた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る夢から醒めさせたものは何であるか？ それは、言ふまでも無く、生活の必要から來た鬪爭の二ケ月である。この二ケ月の間に、彼は本統の自身の感覺で周圍を見、本統の自分の道德で行動することを學んだのである。彼は三十歲近くなつて始めて、自分の眼で田を見、自分の手で土に觸はり、自分の足で畦を踏んだのである。そして田や土や畦が本統の姿を彼の前に現はしたのである。これは奇蹟と言へば奇蹟である。しかしそれは、當然に來る可き奇蹟であるが故に、奇蹟でも何でもないのである。

既成の藝術、既成の道德——既成の文化の一切は、大衆からその創造性を奪つて、支配階級の與へたる眼を以つて見、耳を以つて聞き、手を觸れることを敎へるものである。大衆は長い間、その借りもの丶眼や耳や手を自分のものであるとして怪しまぬ。しかし眼から涙の落ちる時がある！

大衆がその創造性を取返す時が來る！ 大衆が自分の感覺を呼び醒し、自分の道德に目醒むる時が來る！ それの尤も奇蹟的に現れるのは鬪爭の時である。鬪爭はあらゆる借りものを剝奪する。鬪爭の中に大衆は、尤も飛躍的に、創造性を取戾す。鬪爭は、實に、再生である。

プロレタリヤの藝術運動は、大衆を鬪爭へと導くものでなければならぬ。大衆の創造性を取戾す運動でなければならぬ。革命は、大衆の目醒めたる創造性の必然の步みに外ならぬ。（青野）

文藝への逃避

プロレタリアの文藝運動が、ます／＼盛んになつて行くのを見るのは、悅ばしいことだ。だが文藝は兎角に象牙の塔を築きたがる。ブルジョア的な象牙の塔を倒さうとしてゐるうちに、新しいプロレタリア的な象牙の塔を築きかけてゐる。吾々はどちらの階級から築く象牙の塔にしても、それに對して反感を持たずにはゐられない。

プロレタリア文藝が現實生活からの逃避の爲めのものとなつては甚だ心細い。よくプロレタリアの詩人達に見ることであるが、現實生活の苦惱を歌ふことによつて、甘い慰めに浸つてゐるやうなのがある。彼は其處でい丶氣になつてゐる。彼は其處で晝寢をしてゐる。彼は其處で低徊してゐる。詩的な氣分の中に自らを甘やかしてゐる。彼も要するにセンチメンタリストに外ならないのだ。それを見ると情ない氣がする。詩なんか棄て丶しまつて

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

くれたらなアと思ふ。然るに彼は詩を作ることに誇りをさへ感じてゐるのだ。これではプロレタリアも救はれないと、から思はずにはゐられない。

現實生活の矛盾や不合理や苦惱を、たゞ自己陶醉の中に歌つてゐるだけでは、決して眞の解放が來るものではない。たゞ詩的氣分に浸つてゐるところからは早く拔け出なくてはいけない。プロレタリア文藝と銘うつて、如何に社會を呪ひ、破壞を叫び、革命を呼んで見たところが、浮ついた詩人肌の革命氣分に醉つてゐるだけでは、その效果はしれたものである。いや、却つて多くの人々をして浮ついた詩人的な革命氣分に感染せしめて、ジミな本當の革命への途からそらしめてしまふことになるかもしれない。

文藝が怠け者の隱れ場所となつてはならない。現實の生活に直面する勇氣のない卑怯者が、一時の偸安を其處に求めるやうなことがあつてはならない。文藝に慰められて、滿足してゐるやうでは駄目である。社會革命の爲めの實際的な行動に出づるだけの勇氣のない弱蟲共が、文藝に逃避して、女々しい繰り言をならべ立てたり、下らない生活の記錄をつくつたり、空元氣な革命の讃美に徒らに抗奮してゐるだけでは何にもならない。プロレタリアの文藝運動は、常に實生活に向つて呼びかけるものでなくてはならない。いよ〳〵といふ場合には、文藝を振り棄てゝ、肉彈をもつてその目的に突進して行くだけの用意を人々の心の中に培ふ働きをなすものでなくてはならない。

革命的な無產者は文藝には文藝としての永遠の價値があるなどと、呑氣なことを言つて、文藝をおもちやにして樂しんでゐる生活の餘裕なんかありはしない。ブルジョアはその享樂的な生活に快適する文藝のみを眞の文藝だと思つてゐる。それは彼等としては尤もなことだ。然し現在社會の下積となつて、終日の勞働に疲れ、奴隸のやうに虐げられ、うちのめされ、いつも苦しい生活の鬪ひをつゞけてゐる無產者にも文藝に對する要求はないのではない。無產者のうちの少しく敎育あるものは、僅かな暇な時間を見つけ出して、貪るやうに講談本や通俗小說に讀み耽つてゐるのを見るのである。だが、これ迄の講談本や通俗小說は、彼等に一時的な慰安を與へる單なる興味中心のものであるにしか過ぎない。その趣味を少し高めた程度のものが、今日のブルジョア文藝である。

要するにブルジョアはブルジョアらしい暇つ潰しをし、プロレタリアはプロレタリアらしい暇つ潰しをしてゐただけのことである。

プロレタリア文藝運動は、プロレタリアにさうした生活苦を忘れしめ慰めを與へるだけのものであつてはならないことは明らかである。現實生活の奮闘に脊を向けて、文藝に逃避して安住の地を求めしめるやうな感化を及ぼすものであつては斷じてならない。プロレタリア作家も實際行動よりも、文藝の創作が世間的な名聲を贏ち得るに都合のいゝものであるといふやうな考へからその創作に從事してゐるのであるとすれば、甚だ意義のないものとなる。

吾々は文藝を無視しようとするものではない。文藝の感化の偉大なることをよく知つてゐる。無産階級解放の爲めの政治運動や經濟運動の重要なると共に、それに並んで無産階級の文化運動の必要なることをよく知つてゐる。文藝もまたプロレタリアの社會革命に及ぼす影響の決して見逃すことが出來るものはない。政治運動や經濟運動だけでは革命は成就しない。革命への啓蒙的な道開きをすることに於て、文藝の人心に及ぼす力は實に根深いものがある。知らず識らずのうちに人心を支配して革命への準備をなさしめつゝあるのである。表面的に目立ちはしない。けれど內部的にブルジョア的な觀念に幻滅を與へて崩壞へと導き、プロレタリア的な觀念の勝利、プロレタリア道德正義の普及によつてその陣營を固めることに於て、與かつて力あることは明らかである。革命後の社會を建設する上にも見逃す可からざる力となる。

今更こんなことは言はなくてもよいことである。たゞ文藝の社會革命に及ぼす影響の偉大なることを思ふにつけ、文藝を飽く迄も有效に利用したいと思ふだけである。文藝を革命の爲め無産階級解放の爲めに利用するなどと言つたならば、ブルジョア的な作家や批評家達は、文藝を墮落せしめるものだ、その價値を低下せしめるものだといふであらう。けれど彼等が見て文藝の價値の低下となすところのものは、吾々から見れば文藝をして人類生活上に於て、最も偉大なる役目を果たさしめることになるのだ。卽ち文藝の價値を高めたことになるのである。

吾々の目ざすところは無産階級の解放である。無産階級のすべての力をこの目的の方に向つて伸ばさしめることが目下の最大急務だ。この目的の爲めに文藝を奉仕せ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

しめようとするのは、文藝をして人類の歴史上最も光輝あるものとせしめることに外ならない。だからプロレタリアの文藝は、壓迫され搾取されてゐる無産者に、一時的な慰安を與へる爲めの、即ち生活から逃避した境地に導いて忘我陶醉の夢を見せしめるものではなくして、常に實生活の眞只中へ飛び込ましめ、勇敢に階級爭鬪を最後の勝利にまで導く爲めの氣力をそゝぎ込むものでなくてはならない。だから單に無產階級の人々の慘めな生活を描くに止まつてはならない。それでは自然主義の領域をぬけ出てはゐない。無産階級に描かれたる生活を、藝術的に鑑賞せしめることに於て能事が了つたのではない。階級意識に目醒めしめ、革命的精神を喚起し、そして實行にまで奮起せしめるだけの活力を與へるものでなくてはならないのである。(袈裟美)

創作、翻譯、詩、

いづれ委しい批評を書く折もあらうが、早更、こゝに簡單に感謝の意だけでも述べておき度い。それは最近に贈つていたゞいた本についてだ。小川未明氏の「彼等の行く方へ。」この集は、小川氏の藝術にとつて、たしかに意味のある一轉機を示す道程である。題材などに急に變化を求むるには寧ろ無理で、それよりも作者の社會的現實に對する態度が、次第に鋭角的になり、積極的な力が力つて來てゐることは十分に認めなければならない。尊ぶ可き本である。中西伊之助氏の「汝等の背後より」中西君の藝術は、特にフレッシな感覺があるとか、人間が飽まで生き切つてゐるとか言つたものはない。それだけ「羞の探求者」だちには不滿なものがあらう。しかし中西君の藝術を讀むと、どうにも默してをられぬ氣持を起させるものがある。それが何であるかはこゝでは言はぬ。とにかく讀者を太い棒で叩きのめす力がある。その一つのものは革命の藝術として大切なものである。中西君の藝術が人の心を撃つ力は大砲に似てゐる。それに較べると、前田河廣一郎氏の藝術が、人の心を撃つ力は機關銃に似てゐる。その小刻みに肉から骨へと齒車にかけるやうに一刻の休止もなく攻め立てゝ來るやうな表現は正に機關銃である。そこに前田河君の獨自の境地がある。「赤い馬車」は「三等船客」以後の作品集であり、私にとつては第一の集よりは、よほどすぐれてゐるやうに思はれ

る。平林初之輔君の「無産階級の文化」これは平林君の數年來の努力の結晶で、いまさらどうから云ふ必要のないものだ。この集で私たちが非常に興味を以つて見る事實は、平林君の視野が社會的に擴大すればするほど、「藝術」から一歩づつ脱却してゐるといふ事實だ。そしてその「擴大」と「脱却」とが、飛躍でなしに地味な歩みであるところに、また私は心がひかれる。同君の「プロレタリヤ文學綱領」は極めて手輕なパンフレラドであるから、もつと蒔き散らし度いものである。小牧近江君と佐々木孝丸君共譯の「クラルテ」が漸く出た。私が二三年前に詰んだ原本は、檢閲官の手で半頁ばかり削られてあつて、それが面白い個所なので遺憾であつたが、この譯には、そこがちやんと埋めてある。それだけで見ても、いかに念の入つた譯だかが分る。一會社の忠實な事務員がインターナショナリストになるまで――世界戰爭を背景としてその前に立つた正直な人間の聲が、この作の中心生命である。少し大ゲサさな言葉か知れぬが、知識人はこの作を讀んで考へる義務がある。金子洋文君は「地獄から歸つたか少年の話」といふお伽を書いた。まだ半分ばかししか讀まぬが、プロレツトカルトに役立たせやうとする金子君の意圖は十分に窺はれる。眞似の出來ぬ仕事だ。未知な人だが田邊若男君の「自然兒の出爲」といふ詩集をいたゞいた。その方はまだ讀まぬが、附錄みたいな「燃える」は一氣に讀んだ。本誌の「聲人欄」の諸君の詩と同じ行き方、同じ精神だ。いろんな所で火は燃えるものである。(青野)

再びルール占領反對

我社は、佛蘭西のルール占領に對して、再び反對を聲明して、佛蘭西政府に對して警告を發した。

世界欄

全世界の勞働青年諸君へ!

兵士並に水兵諸君!

帝國主義的戰爭に抗して諸君の諸勢力を集中し、一大宣傳週間の力によつて帝國主義的戰爭の危險並に支配階級の反動に對して諸君自ら斷乎たる意志の發現を期するために、吾人が共產主義青年インターナショナル世界大會に諸君を招集してから未だ幾何も經たない。而も久しからずして諸種の事件は吾人の警告を裏書したのだ!

フランスの帝國主義者はルール地方に軍隊を差し向けた、ローザンヌ會議は失敗した、而も又吾人は東洋に於ても戰爭に直面してゐる。帝國主義的爭鬪は到る處に於てその數を增大してゐるのだ。

戰爭の犬共の鎖はたち切られた!

けれども諸種の社會民主的青年インターナショナルは手を携へて鬪はふといふ吾人の提言を斥けたのだ! 彼等のインターナショナルの指導者共は勞働青年の利益と名譽とを足下に踏みにぢつた。而して世界戰爭中社會民主主義者の採れる裏切り態度へのプロテストとして生れた第二半青年インターナショナルは好んで自ら社會愛國主義的指導者共の腕に身を投げ、吾人と共に鬪ふことを拒んだのだ。

青年勞働者諸君!

いれを以て諸君の妨害たらしめてはならない。鬪爭は續いてゐるのだ! 社會民主的指導者共は彼等のヘーグ會議で可決された種々なる非戰決議を吾人に示してゐる。併しアムステルダム勞働組合インターナショナル幹事たるフトムメン自身は數日前巴里に於て恭々しく宣言して曰く、諸種社會民主的インターナショナルはこれらの決議を實行する能はずと。斯くの如く一切は欺瞞となつた。けれども彼はかく主張した、諸君、勞働者の大衆たる諸君は自己の無力を恥づべきである、そして而も諸君は社會民主的指導者達側の最近の反逆的裏切りに責を負ふべきものだと。

青年勞働者諸君!

諸君は新帝國主義的屠殺に於て己れの血を流すを欲せぬことを證擧立てよ。諸君はファスツイスト反動の無抵抗の犧牲者として仆れるを欲せぬことを證據立てよ。諸君は、資本家の合財袋のために他國の兄弟たる勞働階級を壓伏し以て自己

の利益とするを肯ぜぬことを証據立てよ。

社會民主的青年勞働者 諸君！

諸君のインターナショナルの指導者の奴共は、何十萬といふ革命的共産主義青年勞働者と共に、何十萬といふ共産主義インターナショナル及び赤色勞働組合インターナショナルと共に共同の闘爭に參加することを拒んだのだ。今又以前の如く吾人は諸君に向つて愬へんとするものだ。

『指導者共の方の凡ゆる裏切りに目をくれず、戰爭と反動に抗して共同戰線を張れ！』

共産主義青年インターナショナルはフランスの帝國主義に對し、且つ又ルール地方に於けるドイツの資本家共に對し倦まず撓まず闘つて來たのだ。吾人の愬ふる所は何百何千といふ勞働者並に兵士諸君にピッタリ入つてゐる。けれどもルール地方に於て爲す仕事はこれを全世界に延長しなくてはならないのだ！

されば帝國主義的戰爭及び反動に抗する自三月十二日至十八日の國際的示威週間のために敢然起つて以つて期するところあれ！

帝國主義的戰爭反對！

帝國主義的ヴェルサイユ平和條約反對！

ルール占領反對！

反動反對！

…………………………！

モスコー、一九二三年二月一九日

共産主義青年インターナショナル執行委員會

僧正死刑

訪露メソヂスト派の團長ニユエルセン僧正の確言するところによると『もしソビエット政府の顚覆を待たうと考へてゐるものがあれば、其人は永い〳〵間待たなくちやなるまい。何故ならソビエット政府はヨーロッパの他の何れの政府の樣に確固としてゐるんだから』だ相である。が此言は餘りに謙遜深いと云はればならない。ソビエット政府程確固として五年も六年も續いてゐる政府は他にあるか。だが「僧正」の言としちや大出來だ。いや〳〵まだこれ以上大出來なことがある。ユニエルセン僧正の曰く『ソビエット政府に死刑の宣告を受けた樣なロシアの僧正共は何も彼等の宗教のために牢にぶちこまれたんでなくつて政治的な犯罪のためなんだ』と。「僧正」の保証するところだけ間違ひはない筈だ。どうだい、アメリカのブルジョア政治家たちは、『だからロシアを承認しない』なんて。子供瞞しは止めろ。序に日本の坊主共も水平社に虐められない中にロシアへ逃げたら

『ロシア共和國民衆藝術家』

ソビエット政府は有名な作曲家アレキサンダー・グラヅノレの民衆のために盡した功勞を認めて彼に『共和國民衆藝術家』の稱號を與へた。グラヅノレはペトログラード音樂學校のディレックターとして戰爭、封鎖、飢饉と云ふ艱難な年月の間自分の職に就いてゐたのである。ルナチャルスキイは祝辭を述べてこの作曲家の音樂と彼の公共の精神を賞讃した相である。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

モスコー文藝週報發刊

今年正月元日モスコーイズヴエスチアは週刊挿圖は文藝雜誌『クラスナイア・ニヴア』（ルナチヤルスキイとステクロフ編輯）を發刊した。この雜誌は小説、物語、詩歌、論文、（科學、藝術、劇に關する）等を出す相だ。寄稿者の中には最も有名なロシアの文豪連と大陸の作家連（アナトル・フランス、エッチ・ヂ・ウエルス、バアナアド・ショウ等）が含まれてゐる。

モスコーのクリスマス

一月七日――正統ギリシア暦でクリスマスに當る――モスコーの青年共産主義者達は行列をやつた。『地上から迷信を掃ひ落せ』といふのがスローガンであつた。佛陀やポープを皮肉つた置物さへ作つたものだ。モスコーの人々は意見二派に流れて反對するものもあつたらしいが兎に角この日の印象は永久市民から忘られなかつたそうだ。徒歩に馬上に橇に自働車に思ひ〳〵に行列は進んだ。青年達は皆革命歌を唱つた。又天使や悪魔やその他色々な宗教上の高位にあるもの、法王や僧正や法術師の服裝をしてゐた。こう云ふ排宗教運動の外に、産業上の山車も出た。少年少女達が産業別の服裝をして乘り込んでゐた。勞働に還ること、ロシア産業の再興の必要がこう云ふ風にすべての機會に强調されてゐる。

萬國勞働者ロシア救濟會大會

自一月十八日至一月二十日伯林で開かれた。このインターナショナルに加盟してゐる國はイギリス、フランス、イタリ、スイス、オーストラリア、チエコ、スロヴアキア、オランダ、ノルウエ、スエーデン、ドイツ、ロシア、ニホン、アメリカである。世界的に有名な人士の中にはカタヤマ、ローランド・ホルスト、マルテイン、アンデルセンークセ、カメネバ、エドガアテエ、ホワイトヘッド、クララツエツトキン、アントニオ・ボムバッチ、アアサア・ホリッチニル等が出席した。

先づインターナショナル勞働者救濟會總務ウイルリ・ミユンツエンベルグは開會の辭を述べ在伯林ロシア大使クレステイレスキ氏を紹介し、氏はソビエット政府の名前で代表者に挨拶を述べた。次にカメネバ（トロツキの妹）が立つて、ロシア飢饉撲滅委員會のために辯じた。彼女は簡單にロシアが飢饉時代外國に援助を乞はねばならなくなつた。經濟的事情を述べた。即ち、農業器具や、家畜が、怖ろしく缺亡してゐることを述べて、彼女は飢饉後百姓は到底よりよき狀態を利用することの出來ないことを示した。從つて約一億プードの穀物の不足がまだあるのである。彼女はナンセンの言を引いて調査した十州の中に救濟しなければならないものは、子供が五百萬、大人が三百五十萬であることを報告した。昨年からは改善されてゐるがまだ〳〵非常な脅威である。

カメネバは孤兒の狀態を細目に渉つて論じた。今の處一萬一千七百十の「子供の家」があり收容されてゐる兒童數は八十三萬人である。けれどもこの「子供の家」の設備その他貧弱であり時としては食物の不足するものもある。彼女は宣告した。全ゼネレーシロンは消滅せんとしてゐる、全國の勞働階級は出來るだけ多くの子供を救はなければならない！

その他各國の事業について報告があり、次期の活動のために計劃をたて、特に貧窮せる兒童に救濟を增加すること等を議した。詳細なことは次號に讓る。

全日本のプロレタリア諸君、吾々の仕事をして完全に果たさしめよ。「全世界の無産階級團結せよ！」の反古でないことを示して貰ひたい。一錢でも二錢でも送つて貰ひたい。ロシアの子供達は君達の救ひを待ちこがれてゐるのだ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

聳人欄

猥談破裂(續文壇ゴマの蠅征伐)

沐猴　冠者

芥川龍之助、何時の間にやら昇天して人界から消え去り、久米、宇野の兩人は舷をたたかんとして、危く足を滑らかして半分が程を水に漬かり、今日では藻屑を頸筋に絡まらせて跪いてゐるの時、一人「愛嬌者のタンク」と新井紀一をして名評せしめた菊池寛だけが、益々そのタンク振りを發揮して、今度は日本のファンスシスチ高畠素之の傘下に參じて、反動派の一陣笠たらんとしてゐる。菊池にしては天晴れ最後を飾るに相應しき仕事である。

大將既に斯くあるからはと言ふ譯でもあるのか、菊池に續く文藝春秋の雜輩ども、つまり如何に身もだえをして見ても、一人前に小説らしいものも書けず、さりとて銀行や會社へ勤めて人間並の仕事をする智惠も持ち合さずと言つたやうな穀潰し共が、膝とも談合で寄り集つて吼えゐるわ、吼えゐるわ。直木三十三、佐々木味津三、小柳博、齊藤龍太郎などの蜘蛛の連中から、ゴミ箱から這ひ出したやうな佐々木某が茂索つき、それに六區邊でイカサマ指輪か春畫でも賣りさうな名の何やら吉次に、足袋のレッテルにでもありさうな今東光だとさ。

一方に白虎隊あれば、此方にはゴマの蠅があり、今に文壇パルチザンでも出るだらう。さうなつたら劍を懷にして江口渙を狙ふてゐるとか聞く、東光先生あたりが、その團長となつて銀次の子分の吉次と一緒に大に活躍でも暗中飛躍でもして見るんだれ、どうせ白髮の生える迄かかつて、小説らしいものを書いたつて仕樣がないではないか。どうせ他人のフンドシをかつぐなら菊池寛のをかつぐより、國粹會か民勞會の何某親分のフンドシでもかつぎな。どうせ反動勢力になるのなら、其方がまだ氣が利いてゐる。

その反動勢力の一分子とやらで、藤森成吉がヤッつけてゐた、西條八十とやら云ふ男。何のアンな者に反動勢力もヘッタクレもあるものかい。小學校の子供にでも歌はせる唱歌のやうなものを作つて、詩人面をしてゐるから可笑しいや。辭書のなかから拾ひ出して來て、それをさも意味あり氣に並べて見ただけぢやないか。たまたま柄にもなくコーガイヒフンとやらをして見せて、尼港慘虐の歌とやらをヒネり出して見ると、そこらの緣日で吐鳴り歩いてゐる讀賣歌よりもマヅイ下手さだもの、天才も糞もあるものか。この男にあるものは、女蕩しの才能だけだらう。江口渙をして不良少年とかレッテルを附けさせたけれど、今東光なんか

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

まだまだ詩人八十の足下にも及びもつかん。これが早大講師だから、まだいいさ、女學校か何かであつて御覽じろ、全級撫で切りだ。羨しけりや、少し童謠でも作るがいい。山ノ手邊のブルジョアの低脳兒どもが引懸ること疑ひなしだ。嘘と思ふなら西條に訊ねて見ろ！

西條詩人といい相棒になりさうなのが、田中純と言ふ小汚ない色男だ。彼純は何かと云ふと直ぐ早漏とか月經とか、妙な色狂人染みたことを言ひ出すが、その云ふことまで西條と似てゐる。西條はまだ文字にはそんなことを書いたのを見ないが、やはり早漏とか月經とか云ふことが好物で、二た言目には口にしたものだ。ブルジョアの特性だれ。それから見れば尾崎士郎のベエションなんか、愛てがあつてプロレタリア意識だ。田中だつて、そんなに憎くむ可きではないよ。宮崎龍介同樣、マア可愛がつてやつてもいい方だ。五萬圓を掴かむ掴かまぬかの問題ぢやないか。隨分と其處らで、口にこそ出さないけれど目の色變へて妬き餅やいてゐる連中もあらうではないか。殊によると田中純は丑の時參り位されてゐるかも知れやしない。勿論、女ではない男にだよ。純の短篇集がぞら身變りになつて、恨の刃に突刺されてゐるかも知れん。嘘と思ふなら……に訊ねて見ろ！

どうせ文學なんて言つて、センチメンタルな聲を、頭の素天邊から絞り出してゐる連中だもの、この世のヤクザ者には相違ないさ。直木三十三事植村宋一先生のやうに、その昔は「トルストイで儲け大手で御用振り」を勸めたが、今ぢや「花で儲けて女に入れて行く」んださうだ。西にレニン東に原敬と言つた永井柳太郎の珍句も、もう珍らしくもなくなつたが、西條八十も今度はいよいよ相場ででも儲けたか佛蘭西邊へ行くさうだから、西に西條東に植村か。どうだ植村、近頃どれ程儲けたかい。何時までも富士見町邊の小便臭いのを嗅いでるのが能でもあるまいぜ。科學講座や文藝講座の原稿料でもフン張れよ。……………………………………、……………………………………文藝春秋で、野太鼓をたたいてゐたではないか。それとも赤旗を振ると言つたのは、汽車の信號手にでもなると云ふ意味の違ひかい。

印　燒

岩田　敏郎

俺が教室で不安氣分に浸り乍ら
熱心に、ほんとうに熱心に
「路に迷ふた小雀ひとりチツチツ」と教へてゐると、
「おい、授業止せよ」と云つた奴がある。
ふん！　解職か？
一ケ月チヨークの粉を吸ふた報酬二十五圓、今度から呉れないといふのか?!
ボールドにかいた「小雀の唄」を消した。
「みんな家へ歸りなさい！」
夢の中に唱つてゐた小さい人形たち！
さようなら！

×

校長が來た、「今日だけ手傳してくれ」とは何だ？
生徒を家へかへしてしまつたよ。
明日告別式をやると云つておき乍ら
ベルがなつたら……さあ、最後のあいさつとは？

賞めたり、惜しがつたりする校長の口吻
のお上手
官僚主義の權化——永年の御苦勞さま、
「私は五ケ月間何もしませんでした、
只私は敎室を搔き廻したのみでず！」
五百の子女の一割はクス〳〵笑つた。

×

嫌だ〳〵。送別の誠意……」なんて。
いやに白ちやけた宴會だ、おい敎育勞働
者諸君、
ドコに誠意があるんだい？
追放されるK君「あいつを？」と力む、
だが、校長の狸爺は逃げ出した。
唄つた、唄つた、どん底から唄つた。

×

俺のやうに生活が保証されてゐればこそ
免職もクソも恐くはないか……へん！
「君が社會主義者だといふことをあいつ
が知つてゐるんだよ！」
それが解職の直接原因か……

×

只惜しいのは金がとれないのと、
かあい〳〵敎へ子との別離だ！
恭ちやん——節ちやん——愛ちやん！

それからみんなだ！……俺は心で泣いた
——泣いた俺の兩脚に抱きついて俺を倒
さうしたり。
肩にブラ下つたり、袖を引つぱつたり！
もう、そんなことが出來ないんだ！さ
ようなら。

×

おや、一つの人形が落ちてゐる！「恭ち
やん！」
俺は彼女に飛びついた。
しつかと抱きしめて、頰ずりする！
「先生！　今度から私たちに敎へない
の？」
さうです……さうです……
俺はお前たちと逢はれないのだ、
達者でね……幼なきものの上に光あれ
よ！
——生涯に於ける印燒！
一九二三、四、六——

僕は特殊部民の一人である

栃木　優倍

僕は福島の特殊民の一人である今玆に
僕の子供の時分より受けたる侮蔑の一を
話して見やう僕は七歳の年に福島市の東
北にある市立第三小學校に入學の途中祖
母につれられていつたが其途中よりして
彼等にカーボだ穢多の子だなどゝ罵られ
乍も其日は入學を濟し歸て來たがさて明
日より親なしで通學せればならぬので好
き乍も困て居たが僕はても兄姉があつた
ため非常によかつたのだ僕の友人などは
僕等と一諸に行かずに遲れると必ず途中
に於て虐待を受けたものであつたが僕は
二年生の頃迄はさほどでなかつたが三年
生になつた處が兄姉は卒業して居なくな
る今度は同級生など迄が罵しる樣になつ
て來たのであつた其後であつたが僕が一
ヤとした事で先生よりシカリを受た時な
どは先生のやつ迄が生徒と一緒になつて
罵しり僕はそれにたまり兼ねて學校の窓
より逃げ歸つて來た事などもあつたの
だ。それよりはあれは新平民の馬鹿だ穢
多の子だなど丶罵るので僕は幾度はぎし
りのこぶしをにぎつたか知れなかつた又
ても相變らず社會の彼等は罵しりなぜ
僕等に迄毎日々々さまたげるのであら
う。或る日の事であつた町北のはずれに

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て數人者供が僕の歸校を待て居つたのである僕の來たのを見るより早く者供は寄り集り僕を盛に打ち罵しるので止むを得ず僕は今迄通學以來三年間の苦惱我慢我慢なし來れども此時丈けは我慢も出來得ず者共相手にとう／＼喧嘩を初め相手を傷付け自分も頭に傷付けられた事などもある今は思ふ度に社會を呪はずには居られなくなつて來るのだ其後卒業以來、又表の町に出ても其如く何故あつて可程迄僕等を苦しめるのであらう、又或會社に給仕として傭はれたが此處に於ても又其通り毎日多くの人々に種々受ける侮蔑働き兼ねてとう／＼退社なし他の會社に入つたがやつぱり又同じく僕は是迄五回働き口を替へ今は新開社に職工となりて可樣な日を送り居るが我々同胞の兄弟姉妹も僕と同一のかゝる苦惱にもだいて居る事と思はない日は一日も無かつたのである今後永久に我々同胞の孫々々に到る迄かゝる侮蔑虐待を必ず受けねばならぬのである故に我等同胞擧つて之を徹廢なし飽迄も徹底的運動を施しかゝる侮蔑を社會にそゝがなければならぬと僕も之より一層運動なし後に我全國に至る所我々同胞のほころ時節を祈る。

老いたるものの爲に

A子

私と並んで座つてゐるお婆さんは、
糸で引かけた眼鏡の奥で
干からびた眼脂のたまつた眼を
ショボ／＼させながら
たよりない手つきで
それでも一心に
メリヤスシヤツのボタン付をしてゐます
節くれだつた荒い樹の皮の樣なその手と
まばらの白髮を
ヅングリ坊主にかつた、萎んだ頭と
額や眼尻や齒のない口のあたりの、
垢と埃の溜つた無數の皺は
生き永らへた六十年の間
貧乏と勞働とにおしひしがれだ
人間の化石だ、殼だ！
疲れ切つた人間の機械だ！
笑ふことも、喜ぶことも、
もはや彼女の顏からは消えてゐる、
「お婆さん少しはお休みな
又肩が痛むわよ……」
見廻りの目を盜んで
私は小聲でさゝやきました、
「けれどな、手を休めたら喰えねよ！
伜に藥の一服ものませたいしな……」
おゝプロレタリアに
生れおちた時からまといついてゐる
貧人の鐵鎖が
老いぼけた彼女の口に
いたましく、かく呻めかす、
おゝ影の薄い老い果てた彼女の爲に、
只一人の彼女の爲に
今私の血は
呪ふべきものに齒向つて燃えたぎる！

赤い子供から

かく子

三月號の種蒔く人の中に赤き小供等と云ふ文字がありましたが私こそ、赤き子供でありませう、赤き少女でありませう、わたくし達は女學校の二年です、今度三年になるのです、けれど眞赤なんです、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

それは赤いんです、けれど私の父は白いです、今私が種蒔く人をよんでゐましたら、社會主義の雜誌なんか讀まない方がよいと云ふのです、そこで私はこれはもつと大きな世界主義の雜誌ですと揚足を取つたのです、すると父はだまつて居りましたがしばらくして、全體社會主義なんてものは、日本の國體を危くするものだ世界に無類なホコリである國體を破壞するものだといふのです。私は社會主義の何であるかも考へようともしないで只頭からつばきをはいてけなしてゐる人にさからつてもと思ひ（それには自分と云ふものゝ現在を考へて）さからはずだまつて自分の部屋に來てしまいました。私共のクラスに社會主義に共鳴してゐるものは私の外に一人しか居りません。あとの人は何も考へてゐないか　あるひは矢張り父のように考へもせずにくそみそにけなしつけてゐるのです、理由を話せば解る人もあるのです、然し、社會主義に反對する私の友は○○○○○○○○○○○○○○○○○そしてその人自身はあまり考へてゐないのですが　その人の父とか兄とかつたような人々が社會主義を惱み、いやしみ、けなしつけるのでさう信じてしまうのです。ですからそれがその人自身の考へ盡した後のたうとい結論ではないのです、然し、先生、彼らが誇つて止まない○○○○私共の誇なのでせうか、私にとつては少くとも誇であるとは云へません。それは大いなる埃です、

私はその埃のことで少し考へてゐることがあるのです、然し、こんな所で話せません、私は明かにその責任を以て云へる日を待ちます、こんな所でいつたい何所の誰ともわからずに話すことは責任を廻避するひけう者のやうです、けれど私は今その責任を負ひ得る程幸福な自由な位置におかれてゐません、私は今勉強してゐる身です自重しなければなりません。この上話せません、

私は種蒔く人を讀む度に御社の同人諸氏の上に何んとも云へない親しみを感ずるのです、そしてあなたの胸にもえ上つてゐる愛と正義と○○のほのほが私の心の石油にうつつていまにも燃え上らうとすることを感ずるのです、

私は今父のことを書きました。社會の人は云ふでせう、親不孝者め、馬鹿者めと、私が眞實の親不孝者であるならば私は先んじてその名とそしりを受けるでしう、けれど私は、どんなことがあつても親のなつかしさしたわしさを喜びなつかしみ感謝しないではゐられない平凡な人間です思想上ではお互ひに敵です、いつまでもたゝかひます、さういふ時、私には肉身もなにもありせん、同志のみが親であり子であり兄であり姉であるのです。それで私がみも知らぬ方々に、こんなことを書いたわけが御解りでせう。

先生、ある人々は云ひます、社會主義者なんて金さへやればおとなしくしてゐるんだ、貧乏だからあんなことやつてるんだと。

今の日本の社會主義者はこんなとを云はれるような人間達なのでせうか、私は彼等を知らないからよくわかりません、然し、私はそんなことを信じたくはないそれなれば彼等は賃銀奴隷と同じことだ、彼等はあくまでも正義のための社會主義であると、私は信じてゐます、正義

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を求めてやまない人間性の發露にすぎないと思ひます、先生信じてもよいでせうね。

先生、まだ〳〵御聞きしたいことが澤山あるのです、でもあんまり長くなりますからもう筆をおきませう、

そのうちに病中の平林先生を御慰めしたいとおもいます、何か送つてなぐさめようと思つて今考案中です、私は平林先生と皆種蒔く人たちは好きなんです親しい感じが起つてくるのです、もしもこれを平林先生にみせて下さつたらうれしいと思ひます。我國無產婦人運動のため熱血をしぼつて叫び、書き、動き泣いて下さい。

赤帶雜誌の發展を望む

S M 生

赤帶も之二年有餘の歷史的背景をもつ光榮を得た事は僕等プロには如何に愉快を與へた事か其間に名譽の犧牲(禁止)に何回會ひしぞ。

お〻之光輝ある歷史よ實に赤帶同人の奮鬪は云ふ迄もない事である三月號の無產婦人號の如何に潑溂たるや驚愕の眼を持ざるを得ない男性雜誌をしてショックを與へた事は火を睹るよりも明であらう共に同人諸氏に深謝の外はない、今后も益本誌のためプロレタリアンの島に獻身的努力を望むと共に同人諸氏の健在を祈る、來月の朝鮮同志號は今よりして期對して如何に本誌同人の活躍を待たざるを得ない。

振へ赤帶〳〵、僕等プロのために赤帶雜誌の發展を切望する　十一、三、四、

熱火

岩尾　赤爛

…………

…………

…………

○○だ。

「相互の內面的理解、

愛、

無抵抗主義」

ぬかすない。

同志よ

…………

燃えあがれ。

祖國なきもの

鹿島　篤

祖國なき同志の集ひは

限りなき友愛に充ちたものだ

…………

…………

…………

…………

…………

…………

日本も朝鮮も支那も

お〻正義は國境を超越する

…………

…………

…………

…………

…………

…………

無產階級には祖國はない

朝鮮も支那も日本も

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

手を握り合つて。
……………………
……………………

正義の絶叫

深谷　赤人

……………………
因襲よ
お丶貴様は
如何に多くの勞働者を
しひたげたることぞ
お丶みじめにも
ひしがれし勞働者よ
目醒めよ
正義の陽は出た
起て
眞理の扉は開いた
進め
解放された自由の天地に
……………
平等の風は吹く
眞愛の河は流れる
喜びの波の立つ
勞働者のみの
正義の社會を
建設せよ
そこにこそ
まことの
人生の文明は出現するのだ
お丶前途は希望に滿てり。
一九二二、一一、二四、

「白色の恐怖」がなんだ！

S・さとる

○
「白色の恐怖」が何んだ！　俺達の
正義の血汐が
……………………
……………………
……………………
○
……………………
……………………
狂へる熱き一元の
……………………
……………………
○
……………………
……………………
現實は！
……………………
……………………
……………………
……………………
……………………

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

酒

金子洋文

一

教員室の硝子窓は、ことごとくしめきつてゐた。雨にぬれた季の花や、白楊樹の葉をすべつてくる、乳色の光が、人々の心に、開校説念日にふさはしい、新しい歡びを呼起した。

大きい石の爐を圍んで、談笑と、煙草の煙が、輪を巻いて、煤けた、古い天井にのぼつてゐた。めつたに笑ふことのない、幅の廣い、校長の談笑も、その中にまじつてゐた。

欣治が、宿直薄へ前夜の日記を書いてゐるところへ、同僚の村田が、後から、兩肩に手を投げかけて、

『お早う』と、言つた。その言葉に微笑がからんでゐた。

『お早う』

『おい、女の先生の顔を見たかい、今日に限つて、皆白いよ。』

『ふゝん、馬鹿ッ』

左肩にのつかつてゐる村田の顔を、墨筆でおどかしながら、欣治も同じ意味で

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

微笑した。『太田さんの白粉は一番こいよ』と、欣治は宿直簿へ、(十一時就寢)と書きながら、小さい聲で囁いた。

『だが、ソバカスは、かくしきれないね。』

と、村田は、欣治の言葉を奪ふやうに、早口に囁いた。

『それから、貞さんは、白粉を塗るに一番下手だよ、白い部分と、黒い部分とが、はつきり區別されるぢやないか、あれはゴッホの畫く、後期印象派の顏だね。ところが、田所さんとくると、まるで、寮嫁(ごけ)さんのやうな化粧をしてゐるよ。あの赤い、短かい髪の毛を切つちやふと、陸軍歩兵軍曹の未亡人と云ふところだね。』

二人が聲を上げて笑つた時、向側の机で音樂の本を讀んでゐた君子が、丸い、美つくしい顏を上げて、欣治を見た。が、この秘密なさゝやきは、村田の眼に會つてすぐひつこんでしまつた。彼女は一寸微笑んでから、その黒い美くしい眼を、本の上におとした。

『君は見たかい』と、村田は去り際に、低い聲で欣治にさゝやいた。『今日は君子さんも、見えないやうに、こつそり化粧をしてゐるよ』

欣治は輕くうなづいた。

そして村田が去つた後で、彼の言つた言葉を思ひ浮べながら微笑んだ。潮のやうな歡ばしさが、腹からこみ上げてきた。

彼は、筆を運びながら、幾度も彼女の姿を盜見した。彼の位置から、彼女の少し亂れた束髪と、深いえくぼのお丸るい頰と、なめらかな頸筋とが見られた。彼は、無意識に筆を動かし乍ら、

『彼女は、今自分のことを考へてゐるだらうか』

こんなことを考へたりした。

間もなく。

彼女は、讀んでゐた音樂の本を閉ぢて、立上つた。そして紫紺の長い袴を、ふは〳〵動がし乍ら、自分の机をはなれ

た。

『もう何時田川さん』

美しい聲が、欣治の机から一間と離れてゐない所から聞えてきた。同時に、二人の女が、袴の下から、少さい銀側の時計を出して、時間を見比べてゐるのを、欣治は見た。

丁度この時、爐の前から、中央の自分の席に歸つてゐた校長が、高い聲で給仕を呼んだ。

朝の鐘が鳴つた。

間もなく。

千五百に近い子供等の喧騷が、次第に式場の方へ運ばれて行つて、廣い校舍には塵のまじつた靜けさが、取殘されてあつた。

二

その日の午後から、開校記念日の貧しい宴會が、二階の應接室で開かれた。

二十餘人の男女職員が、校長を中央にはさんで、盃の前に席をとつてから、一時間ほど過ぎ去つてゐた。悧巧な校長は、胃腸病を口實に、若い教員達を殘して、間もなく歸つてしまつた。

人々は、毎日のやうに口からはなさない、忠君愛國とか、孝行とか、仁義とか云ふ言葉を、すつかり忘れてしまつたやうであつた。而も、お互の顏を見ると、何れも、

『君、人生は愉快だね。』と、言つてゐるやうに、輝かしかつた。丁度酒は、幸福の糧のやうに、人々の唇にはこばれた。

欣治は酒を飲まなかつたが、賑やかな酒宴の席に坐つてゐることが、好きであつた。その席では、平素嫌ひな人でも、彼は一樣に愛することが出來た。誰も、彼も、好人物であつた。一人も、修身教科書を讀む時のやうな、鹿爪らしい顏をしてゐる人間が、ゐなかつた。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

いつも、訓練を、一手販賣のやうにして、手から竹鞭をはなすことのない、撃劍體操の吉田も、輕薄な政治熱に浮されて、立憲と、國家主義を唯一の信仰としてゐる田邊も、ことごとく好きになれさうに思はれた。ことに平素彼の愛してゐる小數の教員達、村田や、岩崎先生などは、ます〳〵好きになるのであつた。

岩崎先生は、欣治と十才位年が違つてゐた。が、二人は、敬語をはぶくことの出來る、友達であつた。

彼は、

『先生の思慮は古い』と、欣治に言はれることを、一番嫌つてゐた。女性のやうな美くしい顏を持つてゐる人で、病身で、いつも藥と親しんでゐた。彼は三十を越してゐたが、まだ獨身であつた。全く女を知らないのだらう、何處かに童顏の輝きがひそんでゐた。

彼は酒が好きであつたが、すぐ醉つた、そして醉ふと、溫順な平素の態度ががらりと變つて、盛んに論じ初める、ある時は、呪咀に近い言葉を發した。それは、繁雜で、無意味な規則に縛られてゐる人の、無意識な反逆と、悲しみのあらはれであつた。

岩崎先生は、ルツソオとトルヘトイの崇拜家であつた。お寺に生れたせいか、時に欣治達にわからない、孟子や、老子が引用された。而し、欣治達に、古い、古いと言はれるのでいつでも最後に、孟子、老子は決して古くないよ、と、辯明する。そして時々、獨歩の小說や、啄木の歌や、樗牛のニイチェ論などが、顏を出した。

彼は齒に血をにじまして（これは彼の珍しい病氣であつた）酒で、ます〳〵蒼白くなつた顏を上げて、こんな風に語り出す。

『……そこで君、先づこの間の試驗問題を考へて見るがいゝ、（九州の地圖を書いて、それに鐵道線路をつけて、主なる都會をしるせ）と、言ふんだ。こりや、何處の地理の先生でも出す、きまりきつた試驗問題さ。

だが、君、兒童は何故、こんなことを知つてなけやいけないんだね。九州の地圖なんか、諳記してゐなくとも、地圖をひろげさへすれば、いつでも見られるぢやないか、僕が若し、當の試驗官であつたら何うすると思ふ、僕は何も書かずに、

（それは、地圖を擴ろげると、すぐ解ります）と、書いた兒童に、滿點をくれるよ。それが一番正確で、明敏な答ぢやないか。

君、そもそも、日本の地理の先生つて、一體何者だね、あの連中は、自分では、非常にえらい學者のやうに思つてゐるらしいが、十錢の旅行案内ほど、くはしく地理を知つてるかい、十錢の旅行案内程……』

から、自分の言葉にひどく感動しながら、彼は尙も語りつゞける。

『君、日本には、（いや世界と言つてもいゝ）解放された、自由な人間の學問があるかい、（ルツソオ曰くだ、）凡ての人間が平等に、生を享樂すべく、研究された學問があるかい、僕はそんな話を、蚤の髯ほども聞いたことがないよ、日本人は商賣の話を知つてゐる、鐵があがつた話、米があがつた話、人間の價格が下つた話、總理大臣の頭の毛が白い話、博士が三十七人一つぺんに出來た話……』

から、一氣にならべてゝ、苦しさうに呼吸をつぎ、

『けれ共だ、日本には生々しい美の話があるかい、ニイチエのやうな哲學の話があるかい、いや、權力と解放運動とは、何う云ふ關係にあるか、乃至は、我々は何故に美人を尊んで、醜婦を嫌ふか、性欲は何故に天上のものとなり得ないか――。

かういふ話を、日本人は持つてゐると思ふかい、否、否、彼等は人間の要求の何物であるか知らない、人間であることさへ知らない、それに對して、修身敎科書は、どう答へてゐるか、何もない、零だ。あれはたゞ（兒童はどれだけの間、退屈を忍び得るか）をためしてゐるだけに過ぎないのだ……』

彼の議論は、この邊からますます雄辯になり、皮肉になつて行く。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『一體、今日の小學校の先生の頭に何があるんだ。彼等はネオ、ロウマンシズムを知つてゐるかね。イヴが禁斷の木の實を喰べたことは、人間を不幸にしたのではなくて、人間を最も幸福にしたものであることを知つてゐるかね、彼等はワシントンの告白を敎へる、けれ共、彼等はワシントンの正直のみを說いて、彼が木を切つたことや、何故木を切らねばならなかつたかを忘れてゐる。あれは子供が持つてゐる、保存に對する反逆心なのだ。暴風を望んでゐる心なのだ。この心から、偉大な奴隸解放の戰が生れてきたのだ。（彼はこゝでワシントンとリンコルンとを間違ひて言つてしまふ）

全くだ。

彼等は、實に機械に過ぎないのだ。兒童を殺す機械なんだ。師範學校といふ所は、ある意味に於て、人類の芽を刈るための鎌の製造所だ。機械製作所だ。

まあ、師範學校に行つてゐる、澤山の生徒達を見給へ、何に若々しい靑春があるんだ。何處に人類にとつて大事な無邪氣があるんだ。人間らしい顏をしてゐるものは、一人もゐないぢやないか、彼等は囚人の群だよ、灰色の面をかぶつた囚人の群だよ。

僕の妹も、師範學校に行つてゐるさ、あれも未來の女敎員樣だ。だが君、あれはとう〳〵嫁に行けないやうな、醜婦になつてしまつたよ、君はこの悲しい事實を何う思ふんだ。師範敎育は、人間の美を奪ふんだ。人類の誇りとする美を奪ふんだ。

だが、仕方がないさ、俺は獨身だし、あれは、細い腕で、兩親と大勢の兄弟を、喰べさして行かなければ、ならないのだからね』

彼はこゝで一寸しほれる、けれ共、彼の議論はなか〳〵止まない、彼は又語りつゞける、そして最後に、ルッソオとトルストイを論じて、結論するのであつた。

彼はあまりひどく議論をすると、しまひに泣き出すことがある。誰かの膝に倒れるか、机にうつぷしてしみじみ泣くのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

欣治は、それを、他人のやうに笑ふことが出來なかつた。(一人泣いてゐるのではない、皆が一諸に泣いてゐるのだ)と、思はれたからである。

三

欣治が、岩崎先生と深く知り合ふやうになつたのは、ある宴會の時であつた。隣りに坐つてゐた彼は、欣治を捕へてこんなことを言つた。

『君は愉快な人だ、兒童と一緒に、毎日野原に遊びに行くのは大贊成だよ。獄則で縛りつけてゐる、こんな窮屈な、おまけに汚ない校舍で、教育もくそもあつたものではない。兒童へ、今の教科書を讀ませる位なら、廣々とした野原へつれて行つて、一諸に遊びまはる方が、どれだけいゝかわかりやしない。しかし、君のやうな眞似をするには、勇氣が要るね、非常に勇氣が要るね、君は、いつ馘首になつてもいゝ代用教員だから、そんな勝手な眞似が出來るのだよ、君の生徒は實に幸福だよ』

それから、彼は聲を低くしてさゝやいた。

『君は、自分の綽名を知つてゐるかね。子供達は君をジャンヴルジャンと言つてゐるよ、町會議員は社會主義者と言つてるさ。だが、藥屋の親父や、新聞屋や、醬油屋の親父などの町會議員奴等が、君を何んと言つたつてかまはないさ。僕は、子供達の言つてゐる綽名の方が、非常に面白いと思ふ。子供達は尊敬の意味で言つてゐるのだよ。君を尊敬してゐるのだ。同時に、四人を尊敬してゐるのだ。彼等は正直だ。彼等は常に虐たげられてゐるものゝ味方なんだよ。ジャンヴルジャン君、大いにやつてくれ。君の雄辯で、全校の生徒にジャンヴルジャンの宣傳をやつてくれ。僕はあの小說は實に崇拜してゐるんだ。而し僕は校長と郡視學の眼がこはいので、生徒に話して聞かせないんだ、僕は恥しいよ……』

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

欣治は、今ある親しみと尊敬をもつて、この不幸な先生を眺めた。彼は村田を捕へて、何かしきりに話しこんでゐた。岩崎先生と並んで、風間訓導がゐた。

彼は三十に近い尋常科の訓導で、暗記力は圖抜けてよかつた。一寸見は愚鈍のやうであるが、髯の濃い、赭顔に光つてゐる二つの眼が、彼の頭のよさを物語つてゐる。

が、天性、彼は非常に悪いものを持つてゐた。而かもその性質が露骨にあらはれてゐるので、誰も彼を愛するものはなかつた。

彼はある提灯屋の婿養子であつた。それで仲間や世間から、馬鹿婿、變態と云ふ綽名で呼ばれてゐた。時々頓狂な聲を出して教室でどなるので、生徒達は鶯と呼んでゐた。その鶯聲は五學級位はなれてゐる、他教室までひゞいて來た。

彼には羞恥がないと云ふ人がある。しかし、この批評は彼を憎みすぎてゐると云はねばならない。彼は、人一倍、羞恥を感ずる心を持つてゐた。けれ共、いつでもその羞恥を巧みにかくしてゐたのである。彼は嫌やな人間だが、一面愛すべき人間である。

彼はどんな悔辱でも、十錢の銀貨一枚で我慢することの出來る男であつた。他人の皮肉や漫罵を、敏く感じ乍ら、自分に利益のある時は、何も感じない風を裝ひながら、大きな口を開いて笑つてゐた。

一番きらはれてゐる點は、女に對する擧動であつた。彼は他人のゐる前で、女教員の手を握つたり、腰をひねつたりした。いつも、にた〳〵笑ひ乍ら、女教員の傍を離れなかつた。

暗い場所で、ある女教員に接吻せうとして挑みかゝつたこともある。またある時は、女教員の行つたあとから自分も便所へ行つて、よくないことをしかけたこともある。

いつも怠慢な彼は、宴會の席では一番元氣がよかつた。彼はその膨れあがつた腹が、一杯になるまで、忙しく、食べたり飲んだりした。

彼は今、自分の前を、空の銚子を持つて通つた給仕を呼びとめた。そして卑しい笑を顔に浮べながら、何かさゝやい

た。給仕は輕蔑の眼をしてつなづいた。やがて、隣室から二本の銚子と、豚汁を盛つたお椀を、彼の前に運んできた。

劍と體操の吉田訓導は、一番大きな體軀の持主であつた。彼は年中、訓練と云ふことを口からはなさないやうに、竹鞭を手からはなさなかつた。

彼は、自分の酒飲み友達に對しては、可成信義があついやうであつた。金に對しても、そんなに吝くさくなかつた。彼は嘘を眞實らしく傳へる術を知つてゐた。だから、どんな嘘を言ふ時でも、晴々とした高聲で笑ひながら、言つてのける。これは一部の運動家の特徵である。それに、彼は悧巧者であつたので、それだけ言つてゐる嘘も、なかなか剝げなかつた。

彼は、怠者であつた。が、反對に學校外では、一番の活動家であつた。月給の大部分は料理屋に拂つた。町會議員は彼を賞めた。彼は校長の權力さへ、輕くあしらつてゐた。

彼は、さつきから若い訓導を捕へて、藝者の話をしてゐた。照千代、てるは、百合子、など云ふ藝者の名が、時々欣治の耳に聞えて來た。

四

强い眼鏡をかけた、額のひどく凸つてゐる男を田代と言つた。彼は、自分を辯解するために時々嘘を言つた。而し嘘を言ふ時、高い鼻に四本も皺を寄せるので、その喩はすぐ感づかれてしまつた。それだけ、氣の弱い、人のいゝ、小心者であつた。

彼は、師範型の惡い方に屬する男であつた。自分の無智や、無學を、白いチョッキと、家鴨のやうに膨れあがつた胸で、かくして、悧巧さうに見せうとするので、他人に不快な感じを與へた。

彼は珍らしい醜男であつた。ひどい近眼で、ぎろぎろ光る眼の周圍は、太い皺で刻まれてゐた。その眼と、黑人のや

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

うにふくれあがつた唇とは、彼の形相を恐しいものにした。たいていの幼兒は、彼の顔を見ただけで、わつと泣出してしまふのであつた。

紀元節の宴會の時、少しか醉つてゐない彼は、小島と云ふ女教員の袂を捕へて、自分の胸に抱き寄せようとした。人人は驚いた。大變な人間がやつて來たと思つた。彼が赴任してから十日とたつてゐなかつたのである。

今、醜い彼の顔は、酒のために、燒の悪い赤煉瓦のやうに見えた。强い近眼鏡は、額と並行にとび出してゐて、大きな眼がぎろ〳〵まはつてゐるやうであつた。

おやつ、

彼は立上つた。

手に葡萄酒の罎を持つてゐる。

彼は、欣治と同列に座つてゐる、女教員の方を見てにたりと笑つた。

『伊藤さん、一つあげませう。』

彼の高い聲の後から、女の低い、斷る聲がした。けれ共、弱い女達の辭退は、宴會の席では決して男の同情を呼起すものではない。反對に男の執着心を增すばかりである。

氣持の悪い、遊戲がそこに初まつた。彼女は盃を後にまはして、左右に身體をふつた。それから何も言はず、俯向いてしまつた。

それは長い時間ではなかつた。同列に坐つてゐた女教員達は、それをきつかけに、逃げるやうに、その席を去つてしまつた。

田代は背後からあびせかけられた人々の冷笑で、初めてそのことを知つた。そして驚いて男教員の方を振返つた時、その隙に、一人殘つてゐた伊藤さんも、矢のやうに室外に逃げて行つてしまつた。

再び、はげしい冷笑が男教員の仲間から起つた。田代は眞赤になつて、室から飛び出して伊藤さんの後を追つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

田代の失敗は、人々を一様に元氣づけた。彼等は愉快に語つたり、笑つたりした。盃はまたはげしく動き初めた。ある人は元氣のいゝ唱歌を、ある人々は俗謠を唄ひ出した。

その時、突然、干高い聲が一方から起つた。

『諸君、謹聽、諸君謹聽。』

見ると、朱のやうに顏を染めた管瀨訓導が、兩手を上げて、椅子の上に立つてゐた。

『何事が初まるのだらう。』人々は好奇の眼を上げて、彼の聲に應じた。

誰かゞ拍手した。と、半數以上の人々が、それに和した。

『諸君、こゝに我が校の美人、而も音樂家、更に藝術家なる、ミス・キムラ、ミス・タガハの御馳走が殘つてゐる。我輩は、この御馳走を、獨身である、若き人々の群に提供しなければならぬ、諸君、異議はないか。』

この奇妙な提議に、人々はどつと失笑した、笑ひと、拍手が一しきり起つた。

『異議なし、異議なし、』と、二三人が呼んだ。その聲の中には、四十いくつかの、池田首席訓導の聲もまじつてゐた。

欣治は、不意に起つたこの新しい遊戲に、苦笑と皮肉を感じた。この大聲でわめいたり、叫んだり、手を拍つたり、靴をならしたりしてゐる人達が、毎日のやうに眞面目くさつて、忠君愛國だ、孝行だ、禮儀だ、訓練だと言つてゐるのかと思ふと、全く面白かつた。そして、人間がいつでも酒に醉つた時のやうに解放されて、自由に生きることが出來たら、どんなに幸福だらうと思つた。

管瀨訓導は、二皿の御馳走を手に持つて立上つた。そして、苦笑してゐる、村田や、岩崎先生の方に近寄つた。と、突然、

『異議ある、異議ある』と云ふ高い聲が、外から聞えて來た。と同時に、田代訓導が轉げるやうにして、室へ飛込んで

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

來た。

誰かが、興味を中斷された不快から、

『馬鹿つ』と、怒鳴つた。次いで背の低い天神髯の和田次席訓導が、生徒を叱りつける時の謹嚴な聲をはりあげて、

『引込んでゐろ』と叫んだ。二三人の人々も、『默つてゐろ』と、大きな聲で押へにかかつた。彼はよろめきながら、管瀨訓導の肩に兩手を投げて叫んだ。

しかし、これ等の叱聲は、醉つてゐる田代の耳にはいらなかつたらしい。

『諸君、僕は、ミス・キムラの御馳走をとるべき、只一人の人を知つてゐる。何うだ、諸君はその人を知りたいと思はないか』

この意外な發言は、多數の人々を一層喜こばしたやうであつた。かつて、若い男女敎員の問題で、顏を眞赤にしてむづかしい議論をした、津田訓導まで、贊成々々と叫んだ。

田代は、管瀨から一つの皿をとつて進んだ。欣治の胸は異様にふるえた。——豫感が見事にあたつた。

『菊地君』と、田代は、欣治の前に忝々しく皿を捧げて言つた。『僕は今、すべての同僚を代表して、君に、ミス・キムラの接吻の全部を捧げる』

彼は言ひ終つて一禮した。そして自分の言葉にすつかり感動して、自ら拍手をしながら叫んだ。

『諸君、接吻の全部を捧げる……何うだ、詩的だらう。所謂藝術的と云ふところだ』

彼の言葉の終らない前に、盛んな拍手が起つた。

室は忽ち騷音に充された。田代はその騷音に有頂天になつて、タタタ、タタタと、勢よく踊り出した。

欣治は、君子の御馳走を前に見て、錯雜した感情の動搖に。苦笑してゐた。彼は無理にいくつもの盃を唇にふれなければならなかつた。管瀨訓導は茶碗で、酒をすゝめた。

室はひどく亂れた。

彼は今、自分の苦笑が、忌はしい嫉妬となつて、反射的に人々から歸つてくることを知つた。彼は上手にその席から逃げ出さうと思つた。さうするには、先づ自分が、酒に醉はなければならなかつた。

六

室を飛出した時、全身がたわいなく空氣の中に泳ぐことを知つた。それが初めての經驗なので、彼は、むしろ非常に愉快であつた。彼は可愛らしい彼女のことを思ひ浮べた。そして、三鞭酒の歌を口吟みながら、輕く踊るやうにして梯子段を下りた。

當直室には、四五人の女敎員達が遊んでゐた。欣治がそこへはいつて行くと、彼女達はいぢつてゐた提琴をやめて、醉つた欣治の姿を、珍らしさうに眺めた。

『菊地さんは今晩當直なの』林さんは小さい顏に笑ひを浮べながら言つた。『私達は先生のお客樣に來たのよ』

『この家には御馳走はちつともないのね。私達はお酒を飲みすぎたので、赤い林檎を喰べたいのよ。』

いつも口の惡い伊藤さんが、からかいながら言つた。

皆どつと笑つた。そのどよめきの中に漂ふ、女のなまめかしいにほひが、欣治の胸をふくらませた。彼はます／＼愉快であつた。

『僕はすつかり醉つてしまつた。僕は何も知らない、赤い林檎なら二つだけある。勝手に僕の顏からとつて喰べてくれ』

彼はごろり橫になつた。

『何てうまい言葉だ』と、彼は思つた。『俺は、俺は、久振りで偉大な詩人になつたぞ。』

何もかも嬉しく、樂しかつた。すべての行爲が、また言葉が、少しの澁滯もなく、自然に、圓滑に、成就されるやうな氣がした。どんな嘘でも、本當らしく、いや、眞實以上に表現出來るやうな氣がした。彼は大きな聲をはりあげて、酒の力を讃美したいやうな衝動に驅られた。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

欣治は、彼女達のおしやべりにまじつて、賑やかに話した。彼の眼は、しよつちう君子に注がれてゐた。ずるい眼と、眼がでつくわすと、彼は酒以上の醉心地を感じた。

林檎がなくなつてしまうと、彼女達はまた提琴をいぢり始めた。欣治は横たはりながら、一人一人ひやかした。

皆下手であつた。音譜さへ滿足に彈ける者がゐなかつた。

『そんなに冷笑さないで、敎へてくれるといゝに』と伊藤さんが叱りつけるやうに眼を丸くした。

『よしつ』と言つて、欣治はふら〳〵する身體に力を入れて立上つた。

三四度イ調の音譜を繰返してゐる内に、二人の女は、やゝ正確な音を出すやうになつた。しかし、君子は時々指を間違へて、突拍子もない濁音を出した。

『低能だね』

欽治は、かう冗談に笑つて、彼女の背後にまはつた。

『一、二、三』

イ調の音譜が、再び繰返へされた。欣治は、弓を持つてゐる。彼女のふく〳〵した丸い柔らかい手の上を、自分の手で堅く握つた。彼の左の頰は、彼女の肩の上におかれた。そして、彼の耳は、音律のずつと底に、彼女の、どき〳〵なつてゐる心臟の音をきいた。それは暴風雨の夜に、蟲の音を聞いてゐるやうな、うつとりした味覺であつた。ローレライの歌が始つた。

彼の眼は、一寸前に彼女の美くしい襟頸を見てゐた。乾いた唇は黒髮にふれ、大きな指は力一つぱいぎゆつと、彼女の白い指を握りしめてゐた。

感情が見る〳〵うちに沸騰してしまつた。

輕い音律が彼の神經を苛立せた。

慾情が奔馬のやうに體內を驅けめぐつた。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

彼は、最早そこにゐたゝまらなかつた。

行く場所がなかつた。彼は夢中で、廣い校舍をぐる〳〵めぐつて歩いた。

『あはれな者奴』大きな聲で、彼は自分を叱りつけた。『あはれな者奴』

トルストイの貞操觀が何んだ。ニイチエの禁慾が何んだ。それに依つて何故自分達の戀まで縛られなければならないんだ。

神聖とは何んだ。

貞操とは何んだ。

それはことごとく夢ではないか。

俺は裸にならなければならない。

一切の夢を棄てることだ。

過去を棄てることだ。

新しい生活は、彼方にあるのだ。

いつの間にか、彼は音樂室にはいつてゐた。彼は倒れるやうにして、古いピアノの前の椅子に腰をかけた、——彼はふと、その椅子に端然とすはつて、朗らかな聲で、やさしい唱歌を唄つてゐる、清々しい彼女の姿を思浮べた。

急に、彼は形容の出來ない寂しさに襲はれた。何うにも、かうにもならないと云ふ風な、やりきれない氣持が掩ひかぶさつて來た。涙が出てきた。而し、彼は泣かなかつた。彼は急に立上つた。そして何かに戰ひを挑むやうな顔をして、呻くやうに獨言した。

『戀は戰だ。俺が勝つか、彼女が勝つか、どつちか一つを選まなければならない』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

不意に、猛獸のやうな聲をあげて、ピアノがうなり出した。彼が、全身を鍵盤の上になげかけたのであつた。

（大正九年作――十二年四月淸書）

無名の英雄

若松不知火

彼について、嘗つて親しい友達が語つたことがある。夫れは、

――彼には唯一つの惡い才能がある。それは文學の才能だ……、と。文學……？

――此の俺の才能が分業の結果なんだ。そして實際それ以外の何ものでもない……。

魘される樣に叫びながら夕暗をすかして周圍を見廻す。……部屋の中には何一つとして飯の代になるものは殘つてゐない。かんとした空洞が靜寂の代りに、鑒殺の、ぽつと薄赤な氣味を以て迫つて來る。……脊筋を走る貧苦の熱氣にふと竦つとして瘠せた、乾涸らびた黄色な手の皮膚を眺める。動かなくなつた凍えた手を動かす。……嘗つて父を燒いた火葬場の光景が頭に浮んで來る。屍が燃える……それを見詰める。意地きたない老婆達の和讃の聲が、がや〳〵屑を掘り返して騷いでゐる裏の鴉の聲に誘ひ出されてくる。鐘が鳴る……。暗い味氣ない氣が、惻々と餓えた腹の底に喚く音と混じて全身を、軈て全思想を掩ふて仕舞ふ……

冷ひ薄ら明るみが冬の入り口にぽかと赤らむ。板の破目一帶に掛けて貼つた古新聞の活字が一樣に音をたて、狂ふ樣

日本で始めて生れた偉大な革命藝術地獄の出版を記念する爲め六月十八日午後六時（第三月曜日の夜）から駿河臺下中央佛教會館に於て講演會を開きます奮つて御來會下さい。

金子洋文『地獄』出版記念講演會

■『地獄』四幕上演（表現座出演）■

民衆に立脚した新劇運動……………秋田雨雀
夢（貧しき子供達におくる）……………某女優朗讀
題未定……………藤森成吉
挨拶……………金子洋文

■創作集『地獄』に無料招待券を附す■

會費五拾錢

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

アンリ・バルビュス著

小牧近江
佐々木孝丸
共譯
柳瀬正夢氏裝

四六版五三一頁
定價貳圓參拾錢
送料十九錢

クラルテ

全世界に平和を將來すべき秘鍵はこれ！

第五版

現代思想界の各方面より注目されつゝあるところの『クラルテ運動』は、實にこの小説に端を發してゐるのである。この小説が一たび現はれるや、**アナトール・フランス**、**エチ・ヂー・ウエルス**、**ヂヨルヂ・ブランデス**、**ブラスコ・イバネス**、**エレン・ケイ**、**ロマン・ローラン**その他歐米の代表的思想家藝術家の群は悉く本書の許に集まつて『クラルテ團』を組織した。この小説が現代人にとつて如何に意義あるものであるかは、この一事を以つてしても、十分に窺ひ知ることが出來よう。滯佛十一年、バルビュスと直接親交ある小牧氏が、佛文學飜譯家として定評ある佐々木氏と共に、三年間の長日月を閲して譯出せるもの、實に模範的名譯であることを斷言するに憚らない。

現代人のあらゆる惱みは一に本書によつて解決さる

東京市牛込區神樂町二ノ十一　**叢文閣**　振替東京四二八八九　電話牛込二五七三

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

中村吉藏著

現代劇選集

〔本書內容〕

剃刀　帽子ピン

老後　飯

肉店　地震

爆發　職業紹介所

菊半截布裝美本

水島爾保布裝幀

定價二圓

送料十二錢

第三版

血の泌む現實の生を凝視して、根強い藝術的欲求によつて生れた中村氏の現代劇が、如何に鋭利に錯綜せる社會生活を解剖し、如何に徹底的に人間性の矛盾を揚抉せるかを見よ。象牙の塔の反逆者、藝術王宮の異端者たる著者の深刻なる劇作に接して得る感激は、眞劍そのものである。本書に收めた八篇の一幕物は何れも著者會心の作にして、曩に藝術座に於て松井須磨子によつて、また市村座に於て菊五郎、宗之助一座によつて上演されて滿都の好評を集め、劇壇に新生命を與へたものゝみである

東京今川小路　振替東京三三六一八

大阪三休橋南　振替大阪二七一五五

大鐙閣

◎自然社新刊二書

東京神田區表神保町十
振替東京三五五一〇番

創作 地獄

創作 赤い馬車

金子洋文處女作集

四六判三百頁 定價二圓三十錢
上製裝幀高雅 送料十二錢

在來のブルジョア文藝に反抗して、新たに勃興し來れるプロレタリア文藝運動は他のあらゆる解放運動と共に、今や益々白熱化されんとしつゝある。この際に當つて、新興文壇の一闘士たる氏の作集の出でたることは、プロレタリア文藝運動そのものに、より大なる力と熱と光とを與へずにはおかないであらう。氏の藝術は、單なる社會主義的思想や概念のメガホン式宣傳ではなくして、實に燃ゆるが如き主觀による、全無產階級の血と涙と苦惱との記錄である。一切の妥協と虛僞とを排して、現實のどん底に徹せんとする氏の熱情は、脈々として讀者の胸に赤き血を波立たせ、そこに正しき理想と革命的精神とを呼び起さずにはやまないであらう。氏の藝術は、實に、固くして陰慘なる地殼を破つて萌出でんとする新らしき芽だ。この芽の中にこそ、來るべき社會の新らしき花と實とを豫想する。この新藝術、このエポツク、メーキングな無產階級藝術の眞髓に觸れて、魂を躍らせよ！——地獄外七篇の傑作集——

前田河廣一郎著

四六判三四〇頁定價二圓
上製ポプリン表紙送料十五錢

苦惱から生れて、苦惱に死ぬ近代人の喜悲劇は、茲に怪奇な赤光の下に、假借するところなくじりじりと反映されて、混亂せる世紀の騷音大地獄のドラマを演じては、一人一人消えて行く。曩に『三等船客』を著はして新興藝術の深みと强さとをもつて讀者に肉迫した著者は、其益々冴えたる靈筆を驅つてゐる。本書を著はし無產階級藝術の價値を滿天下に問はんとしてゐる。人獸苦界の血と、涙と、饑餓と、遊戲と、破壞と、死を凝視する瞳とは、本書の一頁ごとに讀者の前に亂舞狂奔す。眞に是、人類の臟腑を目の前に、力を籠めて摑み出したるが如き藝術！『三等船客』は第一步にして、本書は著者の第二步である。

■處女作集『三等船客』（好評十三版） 定價二圓廿錢 送料十七錢

に躍り出す……活働の廣告等……暴れ狂ふ猛將……。暗に巣喰てばかり居る熱の頭が、突然の明るみに思はずふらくッとする。茫とした明るみに包まれて全身が盲目の感じに支配され何がなしに其處に冷い風の息を孕む新聞紙に指を持つて行かねばならない……。明るみを！ そして力を籠める……

――ちえッ、分業の結果だ、この俺の才能が……。

後頸に喰ひ付く暗い思想に極力反抗して呟くやうな、泣く樣な聲を立てゝ何の氣なくに其處の破れ穴から一大發見の樣に――半ば空腹を魔痺させる心組で、冷い殘酷な光景を目にする。

……其處は彼と同樣、石をもて赤裸體を追ひ立てられる生々しい悲慘が在る――骨肉同志の勞働の血と汗を洗ひすゝぎする夕暮の、貧民長屋の騷々しさが……。窒息する樣な生々暖い焚火の匂ひが、啀み合ふ親子を異樣な憤怒に驅り立て、赤子を火の樣に泣き叫ばせる……貧に歪んだ挨拶、薄い冷い小走りの人影、躓く石つ塊に斷片的に消えて行く悲病、慟笑する枯木立、絕えず冷い濡れ絹のやうな風が行く……戸ざす、灯ともす……悲しみ、憤り、考へ……。夫等の一切が煤けた障子に、垂れ下つた瀕死の軒に極限されて仕舞ひ――其れ以上――どうしても延びる事の出來ない墓場を思はせる……。

……「墓場」……眞實が、一をも加へる事なく又一をも引く事ない眞實が、打ち碎かれて居る彼の眼前にある。重苦しい灰色の空氣の中に何時の間にか吹き荒れる木枯の氣配が有つて居る。ケラと「レ・ミゼラブル」が閃めく。むつくり赫灼たるブルジョア自由主義者――ユーゴーが身を戰かす。

――かゝる薄暗にどん底に對峙して華やかな明るみを含んだ上層社會がまた存在する。此の上層社會は只一つの目的を持つて居る。その目的の故に存在して居る。――その目的とは卽ちかゝる薄暗い社會のどん底の廢絕である……

夜、……痛切に目を少し上げた彼方、巨大なビルディングの華かな燈火から肝に應える樣に、餓えと寒さが來る。……彼の心はあの眞理の前に、あの人達と戰ひ喘ぎ且つ苦しんで來る。燈火を見詰めてゐる目にじつと淚が溜つて輝やく。

「あすこには一切の文明が藏されて在る。明るい電燈がある。烈火となつて崩るゝ眠い暖爐がある……。其處に飽食の紳

士淑女が、富んだ從つて詩想の奔放な詩人作家を連らねて、しん〳〵と燃える暖爐に言葉を絕した眞冬の詩趣を味はつて居る、嚙み締めてゐる……、社會の心臟だ、文化の泉だ……

「あすこで、貧しい無名の俺が苦鬪の生命を打ち込んだ二三の、あの作品を問題にして吳れないか知ら……。此の俺が社會の爲めにその身を粉にして働いた鑛夫の子であり且つ又自分も幼い頃から如何に怖ろしい、生命を投げ出しての勞働で、あの暖い紳士淑女達の膝の前に、生命のやうに眞赤に燃えてゐる石炭を掘り出したか、その辛苦を知つて居て吳れるだらうか……。その尊い犧牲の生活をえがいた此の貧しいプロレタリア青年作家の才能を、あの暗い地底に眠つて居る炭鑛脈を發見した時の樣に喜び嘆稱して吳れないか知ら……。

「俺はあの魔の咽喉みたいな蒸し暑い洞窟へ、俺の生命を反射して居る安全燈を把えて出入りした結果肺を痛めて仕舞つた……。俺は炭山町から放たれて放浪の旅路に登つた……、それから今迄、一日一刻として貧苦の影から解放された事がなかつた俺が、若し延んとする本眞の燃ゆる魂の奥に、何といふ觀喜だらう、文學を見出したのである。文學は俺を敎育して吳れた。……文學は俺の血だ、肉だ……今でも左樣であらねばならぬのに何といふ事だらう、夫れは他の有ゆる俺達プロレタリアの生涯を費す、殆んど息つく隙もない勞働に依る、依つて生み出された生產機關の配置の樣に、單に一つの技術から進化した分業なのか？ そして夫れ以外の何物でもないのか？……美が？……絕妙なる技巧が？……豐潤無比なる藝術の絕對境が？……

……次第に明瞭にＭの家の集會の席上で議論し合つたＹその顏が浮んで來る。チラと嘲笑の氣味が座を這ふ。Ｙの目には憫憐が光る。

——文藝の本質と言ふのか？……そんな、文藝自體に依つて說明せらるゝものではない。人間は生れながらにして絕對自由だ、と言ふのか？……君は、生れながらにして、餓死するか、でなければ必然に「物質的生產力の一定の發展階段に適應する處の生產關係に」入り込まなければならない無數の人間のあることを知らぬのか……

わな〳〵と胸から鏡のやうなそれらの光景が、彼の熱い吐息に掩はれて離れて行く……。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「俺はその言ふ處を信じなければならない……「分業の結果」の「才能」!……文藝のみから言つても其處には何一つとして他人の文句でないもの、他人の案じた構造の一部でないものはない。他人から他人へ……そして今や凡人をも捕ふるに足る形體や色彩を具えた「藝術」になつて居る。それを生み、これを維持してゐるものは俺達作家の誰でも無い。全く他の者だ。夫れは俺達の心中を九分九厘まで占めてゐる觀客でもない。夫れは觀客をして享樂する事を得さしめ、俺達を生活させる社會的富を增大させる實に無數の俺達兄弟の、プロレタリアートだ……

「俺の文學的才能は分業の結果だ。俺は信じなければならないのだ。……實に脊の皮が剝がるゝ親だ……誰がさう言つてあつたのだらう……おゝ、さうだ、貧しい俺の頭にとつて餘りに單一な太い筋金を張つた樣な名だ――カール・マルクス……。

「俺は矢張り鑛夫の子だ、貧しい只の人間だ。作家――何といふザラ〳〵した空想だつたらう。文學――何といふ階級自覺の心理の魔醉劑だつたらう。……ちえツ! 文學、文學……その門に入る者ははブルヂョアの犬だ……。あの巨大な燈火の下に橫はるビルディングに心臟を有するブルジョアが、そのどす黑い不純な毛細管を流れてゐる血、――その血を吸ふ爲めに、その分業の上に、階級對立の斷崖の彼方に、藝術の爲めに敵に身を賣つて居たとは……何といふ美しい(?)空想を抱いて居たものだつたらう……藝術の名の下に血を……血、そしてその事實に對して何事も俺は思はなかつた。動かなかつた。戰はなかつた。……おゝ、俺はその血の子だ……鑛夫の子だ!

眞情をゆるやがす熱い淚が、目蓋を衝いて止め度なく流れ落ちる。彼は全く凍えた猿の樣なわが手を、ちゆつ、と脣で吸ふ。冷い甲へ、わな〳〵と暗闇を戰慄かして他愛もなく淚が落ちる……。

集會の席場等でも、彼は非常に謙譲である。然し此の夜程熱狂して文學の話をしたことはついぞ無い。彼は鑛夫の子である事を誇る、と言ふ。――文學は靑年の魔醉劑だ、と言ふ。最後に、ウンターマンの「マルクス經濟學」……彼にとつて唯一の實物だと見られる夫れの上にばら〳〵と淚を落すと共に、その本を搔抱いて狂氣の樣に立ち上る。熱籠つ

た低い咽喉聲が、冴え返る二月の集會の襖を揺やかす。――修羅場へ！……

一座の者は皆何事か知つて居る。斯うした純な熱情を見る事は、最初の者には誰しも經驗する事で珍らしくないのだが、優秀な創作上の技巧と、夫れに適應した彼の純眞を知つて居たものには、今更、階級心理の深刻な不拔さに吻つとする。――この男が……と。……夫れは取りも直さず彼等プロレタリアから出た少しでも智識のある――正に何事を棄てゝも「その道」を直進しなければならない自覺分子が、「その道」から岐路に入り一歩文學と言ふ阿片を弄ぶ者に正にロクな奴が居ないと言ふのは合理的の事實であつたからである。……

だが、血相變へて彼の身邊に何となく不安の影が付き纒つて居る。で一座の一人が立つて靜かに肩に手を置いて問ふ。

――何處へ？……

然し直ぐに彼の答辯は一座に不審の眉を開かせる。

――二日間、食はないんです……これを賣るんです……

と、涙に濡れた青黒い表紙の「マルクスの經濟學」が、見る目にあはれに、胸に喰ひ込む様に一座の熱氣を誘つて持ち、振られる。――そして此れが彼の無言の表別の言葉であつたのである。――岐路を捨てた、階級自覺の火を獲た彼は、當然驀進すべき「その道」を見出すべきであつたから。その時、彼の脊後に、赤旗の様な批評が閃めいた。

――鑛夫の子……誇りだ！

――無名の英雄……

彼の名は既に再び文壇に見出す事が出來なかつた。然し彼が文壇に最後に投げ與へた所謂、無き彼の絶筆「火を獲た者の進む道」は非常な人氣を持つて呼ばれ、續々と現はれ出たプロレタリア作家に非常な刺戟を與へた。彼等は一樣に「火を獲た者の進む道」を嘆稱した。然し彼等の中一人として眞に「火を獲た者の進む道」の作者の進んで居る「生死の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

道」を理解したものは無かつた。彼等はプロレタリアを描いた。然し其處には當然描かるべきプロレタリアの生活から發した電火を、換言すればプロレタリアの歴史的意義及び使命から發した不可避の鬪爭を魔痺さして居た。

戰鬪的プロレタリアは誰しもこの矛盾した生活を究明した許りではなく、其處に新たなる歴史を創造すべき使命を見出し、目標と到達點をも闡明したのであつた。

プロレタリア苛酷な鐵鎖の下に、情熱と力と光輝にあふれて戰つてゐる……

プロレタリアは彼等から出た此の魔痺した裏切り者を罵つた。彼等はその聲の偉大を、しみ〴〵その成長に看て驚き、文字の上の爆彈や破壞を擁した。然し盡く眞にプロレタリアの歴史的意義、及使命を知つて疾驅する「火を獲たる者の進む道」を知つた者は無い……この作者が現在進んでゐる道こそ「火を獲た者の進む道」以上のものであるのに。

全プロレタリアが、今苛酷なその生活の根本條件の爲めに、從つて社會全體をより高度のものに引き上げんが爲に「その道」に苦鬪して居る時、彼等は、その生活の末稍神經に於て、日當りのいゝ座敷に寢ころんで「苦鬪」?して居る……

――同志! 俺達は敗けてばかり居る……。斯うして靜寂な天地にほつとあの火と鐵の怖ろしい人事から放たれて面接すると、この儘埋もれて仕舞ふ樣でならない。俺達みんながさうなんだ、苦しいんだと鐵火はひしめいて吹鳴るけれども……あゝ、小鳥が鳴いて、日は輝いて、こん〴〵と湧く胸うちの眞純が、――上つて來る……泥を落して上つて來いと言つてゐる樣で仕方がない……。何者だらう?……

斯う答ふ大青年の顏には言ひ樣のない刻苦が深い額の一文字の皺となつて表はれてゐた。秋晴天の一日――それから數年後である。

彼は若い時代に對して隙々に縷々とその胸の燃ゆる火を培養して居たのである。孜々として讀書に、演說に、運動に、心身を碎いて意としなかつたのである……。鬪ひ疲れた時彼の身體はいつも若い時代の群れに運ばれるのである。……長い苦鬪を振り返つて看、斯うして圍繞してゐる若い時代の情熱と力と光輝を嚙み締め、未來の必勝を感じて再び「そ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の道」に血みどれに起き上る時、彼は心の底から微笑する、全身を揺やがす、この頑丈な骨組みに、いまに、血が鼓動し、肉が隆起す……。――それがプロレタリアの生地の儘の藝術ではないのか。赫灼たる全能の共産社會が渾身を起す……。

そして再び筆を取る様な消極的な、愚かな事はしないのである。

……だが、あの夜は決して彼にとつて忘れられるものではなかつた――と言ふのは、彼は今、彼の青春時代に悶えた、その通りの悶えが此の質問者の顏に漲つてゐるのを見て、餘りにも明細に此の質問者の心理を解剖し、說明してゐるのだから。久し振りで彼は既に死んで、强固な志操の下積みになつてゐるあの夜の光景をまざ〳〵と思ひ浮べる……そして此の質問者が、きつとプロレタリアの「その道」を眞に進みます……と誓ふまで、懇々と、既に老えてゐるその腥ましい諸腕に熱情を喚起して、細々と「その心理」を上記の様に語つて來たのである……

――良く解りました、同志……

長い此の話の後で若い質問者は力を籠めて彼の手を握る……

蜂の巣のやうな炭山脈である。穿たれた無數の坑内からはトロコの音、槌の音、鑿岩機の音、人間の叫び聲が絕えず威嚇するやうに鳴り續けて居る……。暗い。澄んだ紺碧の空が突如、肉聲に攪亂される。雁の渡る影が射す。黑煤に噎せた豪宕の白日がその赤裸體の身をゆすつて笑つた……

――いゝ天氣だ……

言ひ終つて彼は暖かさにむづ〳〵する肩の日埃を叩いて青年を省み。二人の坐つてゐる頂上に聞耳を立てゝゐる炭坑の入口を省み、全身に「作業」を感じて立ち上る。靜かに力をこめてこの記の結果を附ける……。

……心の中では絕大の歡喜、――俺は、俺達はいま生產機關を前に、生產機關を動かしてゐる偉大なる者……全世界を動かしてゐる。プロレタリアだ、といふ觀喜にうたれながら……

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

——若い同志、俺は經驗しか語れない……然し、人間の支配が、より高度の物の管理に變る時、總べてのプロレタリアートはきつと相互に囁き合ひ、軈て演壇を作り、インターナショナルの唄と共に繰り返し、繰り返し叫ぶであらう。……我々のこの觀喜、眞の人類共通の觀喜が持ち來さるゝまで實に無數の敵があつた。然かもこの敵を凌いだ無數の我々の祖先は——實にその大多數は、聞える事なく死んで行つた。然し、此の大多數の無名の祖先なくしては我々の今日は持ち來されなかつたらう。我々の彼等に對する義務は、流された彼等の血の一滴をも無駄にしない、といふことにある。……實に彼等こそは我々から熱愛さるべき眞の祖先である。無名の英雄達である。

藝術戰線

藝術戰線——老革命家堺利彦氏の慰問集として、二十九名の急進思想家、及び創作家、詩人、戯曲家、批評家の作集は、六月初旬頃自然社より出版される。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

前號目次

K村行きの記……………山川　亮
遁　走……………松本　弘二
『世界語』比較小論……佐々木孝丸
勞農婦人の印象…………鈴木茂三郎
平林初之輔氏に…………尾崎　士郎
尾崎氏に答へる…………平松初之輔
飢えたるロシアの兒童を救へ…………
桃色の兵隊……………中西伊之助
ブランキズム…………佐野袈裟美
車中漫語……………田所　照明
解散された國際婦人デー…………
□批評欄――世界欄――聳人欄…………
□表紙及びカツト…………柳瀨　正夢

編輯後記

『種蒔く人』も十九號を重ねた。その間、我々の苦勞も並大抵ではなかつたのみならず、讀者諸君の聲援も、我々の勇氣を鼓舞してくれたこと、亦甚大と言はねばならない。

中西伊之助は目下中野刑務所にゐる。近頃は毎日砂糖袋をはつてゐる。なか〳〵元氣だと知らせがあつた。六月二十八日早朝出獄する。

メーデーに於ては、各同人思ひ〳〵の奮闘した。無產者の意氣は昇天に達した。集つた大衆は昨年に倍した。生憎くの雨に、返つて士氣を强めた。

無產子供週間は、五月五日より一週間、我社はこの記念週間に對して、帝都學生聯盟と協力、大いに無產少年の爲めに氣を吐く積りであつたが、その筋のお眼鏡に叶はなかつたり、いろいろの障害の爲めに活躍が出來なかつたのは殘念であつた。

定價　一部三拾錢◇半年前金一圓八拾錢◇一年前金三圓六拾錢御註文はすべて前金のこと◇代金の領收は雜誌發送を以てする◇送料內國壹錢外國四錢

廣告　廣告及廣告料については直接本社へ問合せを乞ふ

宛先　寄贈、通信購讀申込及び送金、其他本誌に關する一切の御用向書籍雜誌等の寄贈は凡て「種蒔き社」宛

締切　每月五日

大正十二年五月廿八日印刷納本
大正十二年六月一日發行

東京府下千駄ヶ谷穩田百一番地
發行人編輯人
印刷人　今野賢三

東京市神田區佐久間町三ノ十九番地
印刷所　三洋印刷株式會社

東京府下千駄ヶ谷穩田百一番地
發行所　種蒔き社
振替口座東京五九三八七

大賣捌　東京堂　上田屋　北隆館　至誠堂　東海堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

梅雨の季節が來ます

薄くて丈夫な英國バーバリー會社製の紳士用防水用レーンコートが二十圓八十錢より、オイルシルク製淑女用東コートが二十一圓五十錢より、通學等に丈夫で最も實用向きな格安ゴム引防水布マントが十三圓三十錢、其他レーンハット洋傘ゴム靴蛇の目傘、高下駄、合羽等の必要品は殘らず取揃てあります

雨の御用意は三越へ

東京市 **三越呉服店** 駿河町

◆六月の定休日は十一日と廿一日◆

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

種蒔く人 第三年第四卷第十九號（大正十年十二月一日第三種郵便物認可）大正十二年五月廿八日印刷納本 大正十二年六月一日發行
本號定價三十錢

地獄から歸つた少年の話

金子洋文著

◇◇最新刊◇◇

金子氏は天稟豐かなるプロレタリア作家として新興文壇に雄飛する新人である。戯曲に於て、小説に於て、往くとして可ならざるなき氏が、滿身の人類愛と正義の熱情に燃えて書かれた本書は、童話界嘗て見ざる力强い童話である。

來るべき世紀の支配者たる少年少女のために、人類驚異の的たる蟻と蜘蛛の生活に題材を取つて、彼等の渾然たる相互扶助の社會生活を洗練された筆致をもつて藝術的に浮彫し、久しく沈滯せる童話界に新生面を開き且興味盡きざる本書を全土の少年少女諸君にすゝむ

四六版極美本　定價一圓二十錢
口繪挿畫數葉　送料十二錢

東京今川小路・振替東京三三六一八
大阪三休橋南・振替大阪二七一一五五

大鐙閣

種蒔く人

第三年第四巻第十九號（大正十年十二月一日第三種郵便物認可）大正十二年五月廿八日印刷納本 大正十二年六月一日發行

本號定價三十錢

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA